

(3) ノモンハン事件

311 昭和14年5月19日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

日滿部隊が外蒙に侵入したとのソ連側抗議に

ついて

付記 欧亜局第一課作成「昭和十四年度執務報告」

より抜粋

ノモンハン事件の発端について

モスクワ 5月19日後発

本省 5月20日前着

第五八三號

第十七日夜「モロトフ」ヨリ本十九日午後五時半來訪アリタ
シトノコトナリシヲ以テ(十八日ハ蘇側休日)右時刻ニ往訪
シタルニ「モ」ハ本日ハ日滿側ヨリスル外蒙國境侵犯事件
ニ付御話シ致度シ最近「ノモンカンウルトホ」(再カ)「ハルビン
ゴ」「ドングーロウオ」方面ニ於テ一切ナラス(五月十一、
十二、十五日ノ外其ノ後ニモアリ)日滿部隊ノ外蒙國境侵
入アリ其ノ結果死傷者モ生シタリ又日滿側ハ飛行機モ使用

セリ實ハ貴使モ御存シノ通り蘇蒙間ニハ相互援助條約アリ
其ノ關係ニテ本件ニ付御話シスル次第ナルカスル事實ノ前
ニハ蘇側官憲ノ忍耐ニモ限度アルヘク此ノ事ヲ貴使ヲ經テ
貴國政府ニ警告セントスルモノナリ斯ル事件ノナキコトカ
日本政府ニ取リテ可ナリト思考スト述ヘタリ

依テ本使ハ滿洲國ト外蒙トノ間ニ衝突アリシコトハ新聞報
道ニ依リテ承知スルノミナルカ右ニ依レハ貴下ノ言ハルル
カ如ク日滿側カ侵犯シタルニ非スシテ外蒙側ノ侵入ニ依リ
テ衝突起リタルモノナリ尙前回會談ニ於テ述ヘタル通り帝
國政府トシテハ不脅威不侵略ノ方針ヲ持スルモノニシテ滿
洲國モ我國ト共同防衛ノ關係ニアルコトナレハ同一方針ヲ
執リ居ル筈ナルニ付其ノ滿側ヨリ侵略アリシコトハ認ムル
能ハス

但シ本國政府ヨリ何等公電ニ接シ居ラサルヲ以テ東京ニ照
會ノ上御返事致スヘシ尙唯今蘇蒙間ニハ相互援助條約アリ
ト言ハレタルカ右條約ニ依リ蘇政府ハ外交上ノコト迄モ外
蒙ヲ代表スルコトナリ居ルヤ又蘇兵ハ外蒙ニ駐在シ外蒙
ノ同意ノ下ニ同國ノ國境守備ニ當リ居ルモノナリヤ參考ノ
爲承知シタシト述ヘタルニ「モ」ハ新聞報道云々ハ笑止ナ

リ之ハ非カ何レノ側ニ在リヤヲ誤魔化サン爲捏造セルモノニシテ打消ス要無シ日滿側カ外蒙國境ヲ侵犯シ軍事行動ヲ起シタルモノナレハ日滿部隊及飛行機ノ侵入行爲ニ對シテハ日滿側ニ責任アリ吾人ハ斯ルコトヲ默認スル能ハス蘇蒙相互援助條約ハ當時新聞ニ公表ノ通りナレハ右ニ依リ御承知ト思考ス攻撃ハ外蒙ニ對スルモノナルモ右條約ノ關係上斯ルコト無キ様蘇政府ヨリ警告スルモノナリ忍耐ヲ試サントスルハ不可ナリ斯ルコトハ罰無シニハ濟マサルヘシ就テハ關係方面ヘ以上ノコトヲ通報セラレタシ尙本日ノ聲明ハ蘇蒙相互援助條約ト完全ニ一致スト述ヘタリ

之ニ對シ本使ハ貴下ノ説明ニハ判然セサル點アリテ貴下本日ノ申入カ蘇蒙條約ニ合致スルトノ聲明ハ一應ノ御説明トシテ了承ス何レ東京ノ返事ヲ待ツテ何分ノ回答ヲナスヘシト述ヘテ別レタリ

滿ヘ轉電セリ

(付記)

「ノモンハン」事件ノ發端

滿蒙國境ハ蜿蜒七百六十軒ニ及フ處、右國境ニ付テハ從來

滿洲及外蒙古カ共ニ支那ノ國內的行政區劃ニ過キサリシ關係上國境條約ノ如キモノモ未タ締結セラレタルコトナク、境界ノ不明確ナル箇所モ多々アリテ國境線ニ關スル紛争絶エタルコトナシ。然ル處昭和十四年初頭ヨリ外蒙兵ノ「ノモンハン」地域ニ對スル越境事件頻繁ニ起リ滿側警備隊トノ小競合ヲ重ネ來リタルカ、五月十一日「ノモンハン」西南方約十五軒附近ニ不法越境シ來レル重輕機重擲彈筒ヲ有スル約八、九〇名ノ外蒙兵ニ對シ滿側カ反撃シテ之ヲ「ハルハ」河以南ニ壓迫スルト共ニ「ハルハ」廟附近ニ進出セル外蒙軍ヲモ「ハルハ」河以南ニ擊退シタルニ對シ外蒙側カ兵力ヲ増加シテ右地域ノ回復ヲ圖ルニ及ヒ事件ハ次第ニ重大性ヲ帶フルニ至レリ

~~~~~

312

昭和14年6月(1)日

在米國堀内大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ノモンハン事件が国際政局に与える影響につ  
いての米国紙による観測報告

ワシントン

発

本 省 6月1日後着

特情華府第五號

滿蒙國境「ノモンハン」ニ於ケル衝突事件ハ米國ニ於テモ非常ニ其ノ成行ヲ重要視サレテ居ルカ卅一日ノ「ボルテモア、サン」紙ハ其ノ論說ニ於テ同事件ノ意義ニ付テ米國側ノ觀測ヲ左ノ如ク述ヘテ居ル

滿蒙軍衝突事件ノ重要性ハ事件其ノモノニハナク國際政局ニ對スル影響ニ關聯シテ存スルモノテアル滿蘇、滿蒙國境事件ハ既ニ幾百トナク起リ結局大戰爭ニナラスシテ解決シテ居ルカ今度ノ事件ハ左ノ理由ニ依リ特ニ注目ニ價スル  
一、去ル十月以來日本ノ政策ハ支那ヲ目標トセス極東ニ於ケル列強ヲ目標トシテ居ルコト

一、目下英蘇交渉力進捗中テ極東ニ於ケル紛爭ハ蘇聯ノ西歐洲ニ於ケル勢力ヲ減殺シ交渉ニ影響ヲ及ホスヘキコト  
一、張鼓峰事件ノ意義カ「チエツコ」事件ト同時ニ起ツタコトデアリトセハ今回ノ事件ニモ同様ナ意味カアルヤモ知レサルコト

313

昭和14年8月22日

在ソ連邦東郷大使より  
有田外務大臣宛(電報)

ソ連側よりノモンハン事件につき外交交渉による解決の可能性示唆について

付記 欧亜局第一課作成「昭和十四年度執務報告」

より抜粋

ノモンハン事件の処理方針について

モスクワ 8月22日前発

本省 8月23日前着

第九七〇號(極秘)

往電第九六九號利權問題ニ付折衝ヲ重ネタル際「ロゾフスキー」ヨリ兩國正常關係ハ自分モ非常ニ希望スル所ナルカ之カ爲ニハ双方共其ノ義務ヲ嚴守スルコト必要ナリト言ヘルニ依リ本使ハ兩國關係力正常ナル立場ニ置カルルコトハ以前ヨリ再三申述ヘタル通り本使ノ希望スル所ニシテ之カ爲ニハ一切ノ諸懸案即チ漁業問題、利權問題、國境問題其ノ他ヲ解決スルコト肝要ナリ蘇政府ニシテ衷心ヨリ本使ノ希望ヲ分ツニ於テハ各種懸案ヲ双方ノ善意ニ依リ解決スルノ決意ヲ有スルコト必要ナリト述ヘタル處先方ハ貴使ハ在來爾餘ノ諸懸案ニ付テハ説示セラレタルモ今迄國境問題ニ付具體的ニ御申出アルニ於テハ蘇側ハ之ヲ研究スルコトト

スヘシト答ヘタリ依テ本使ハ從來共一切ノ懸案解決ト言ヒタル次第ニテ其ノ内ニハ當然國境關係ヲ含ム次第ナリ蘇側ニ於テハ常ニ正常關係云々ヲ口ニセラルル處眞ニ之ヲ希望セラルルナラハ今日申述ヘタル利權關係諸問題ノ如キ直ニ之ヲ協議スルコト必要ナリ但シ蘇側ニ於テ何等カノ意圖ヨリ日蘇關係ノ好轉ヲ欲セサルナラハ格別ナルモ現下ノ歐洲等ニ於ケル國際政局ヨリ見テ日本トノ國交關係ヲ惡化スルコトハ蘇側トシテ利益ナリヤ否ヤ大ナル疑問ナルヘシ

兎ニ角蘇側力眞ニ正常關係ヲ希望スルノ誠意ヲ有セハ其ノ方法ハ貴方ニ於テ研究セラルルナラハ多々アルヘシ何レノ途蘇側ニ於テハ利權關係人員及物資輸送問題ノ如ク蘇側ノ當然許可スヘキ諸案件ニ付我方申入ヲ容レ先ツ誠意ヲ示サルルコト可然シト述ヘタルニ「ロ」ハ日蘇關係正常化ニ關スル誠意云々ハ先ツ之ヲ日本政府ニ向ケラルヘキナリ蓋シ關係改善ノ如何ハ一二同政府ノ態度ニ懸ルヲ以テナリ貴使ハ利權關係ニ付テハ詳細申出ラレタルモ國境問題ニ付テハ何等具體的ニ申出テラレタルコトナシ若シ具體的ノ御申出アラハ蘇側ニテモ研究スヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ國交正常化ノ如何ハ日本政府ノ態度ノミニ懸ルトノ言ハ了解シ

得ス双方ニ改善ノ意嚮ナキ限り正常化ハ不可能ナルヲ以テ此ノ點蘇側ノ熟考ヲ求ムルモノナリ國境問題ニ付再三御話アリタルカ自分トシテハ何等政府ノ訓令ヲ受ケ居ラサルヲ以テ以下私見ニ基キ申述フル儀ナルカ現在「ノモンハン」地方ノ如キニ付テ之ヲ觀ルニ日本側亦若干ノ損害ヲ受ケ居ルモ蘇側ノ損害ハ右トハ比較ニナラサル程甚大ナルアリ蘇側力如何ナル目的ヲ以テ同地方ニ於テ斯ル無用ノ行動ヲ敢テ爲ツツアリヤ其ノ意味合ハ不可解ニ屬スル所ナリ

又自分ノ有スル報道ニ依レハ「ノモンハン」地方ノ殆ト全部ハ日滿軍ニ依リ占領シ居ル次第ナルカ若シ蘇蒙軍ニシテ全部「ハルハ」河以南ニ撤退スルノ意思アルニ於テハ日滿軍ハ爾後之ヲ攻撃セサル様取計方考慮ノ餘地ナキヤ日本政府ニ請訓シ見ルモ差支ナシト思考スト述ヘタル處「ロ」ハ本件政府ヨリ訓令ニ接シ居ラレサルニ於テハ御話スルモ無益ナリ唯戰況ニ付テハ同盟通信其ノ儘ヲ述ヘラレ居ルカ如キモ斯テハ貴使ハ甚タ氣不味キ立場ニ陷ラルルコトアリ得ヘシ尤モ貴使カ本件ニ付正式ニ訓令ヲ受ケラルルニ於テハ特ニ之カ爲會見ヲ爲スモ可ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ戰況ニ付同盟通信云々ト言ハルルモ本使ノ陳述ハ政府ノ公報

ニ基クモノニシテ蘇側ノ損害ノ甚大ナルハ確證アルコトナレハ貴方モ篤ト現地ニ於テ取調ヘラルレハ判明スヘシ尙本使ノ唯今申述ヘタル所ハ若シ蘇側ニ於テ希望ヲ有セラルルナラハト言フ前提ノ上ニ立ツモノナリ從テ貴下ニ於テ政府ト協議セラレタル上此ノ種希望ニ付會見ヲ希望サルルニ於テハ何時テモ會談ヲ辭セスト述ヘタルニ「ロ」ハ蘇側トシテハ日本側ヨリ訓令ニ基キ具體的ニ申入ラルルナラハ之ヲ研究スヘシト言フニ在リト繰返シ本使ハ貴方コソ政府ノ膝下ニ在ルコトナレハ政府ト協議セラルコトハ便宜ナル次第ニモアリ本使トシテハ貴方ヨリ申出アル場合重ネテ會談スルコトトスヘシト應酬シ辭去セリ

## （付記）

「ノモンハン」事件ノ處理方針

「ノモンハン」事件ノ處理方針トシテハ東京ニ於テハ當初左ノ二大方針ヲ持シタリ

（一）該事件ヲ滿蒙間ノミノ局地的問題トシテ取扱ヒ不擴大方針ヲ執ルコト

（二）該事件ニ關聯シテ「ソ」蒙相互援助條約ヲ事實上認め

「ソ」聯ノ外蒙ニ對スル支配權ヲ容認スルノ結果ニ陷ラサル様注意スルコト

然ルニ七月十六日「ソ」聯機ニ依ル「フラルヂ」爆撃ヲ契機トシテ紛爭擴大ノ兆現レタル處、此ノ際全般ノ情勢上成ル可ク速ニ事件ノ收拾ニ努ムルヲ有利トスル見地ヨリ十七日五相會議ハ前記不擴大方針ハ堅持スルモ適當ノ機會ニ在「ソ」大使ニ訓令シテ切迫セル空氣ノ緩和ト國境ノ平靜化ヲ圖ルタメ外交々涉ヲ行ハシムヘキ旨決議セリ、右決議ニ基キ七月二十一日在「ソ」東郷大使宛ニ我方カ話合ヲ纏ムルニ付焦リ居ル如キ印象ヲ與フルコトハ避クヘキモ外交々涉開始ノ好機ハ之ヲ逸セサル様注意スヘキコト及本件交渉ヲ行フ結果「ソ」側カ我方ニ於テ「ソ」蒙相互援助條約ヲ事實上認メタリト思料スルニ至ルモ亦止ムヲ得サル旨ノ訓電ヲ發シタリ

續イテ東郷大使宛重ネテ我方ニ於テモ好機ヲ見テ局面收拾ノ「イニシアチヴ」ヲ執ラントスル意思ヲ有スルニ付利權等ニ關スル交渉ノ話合中ニ適當ノ機ヲ見テ停戰ニ對スル「ソ」側ノ出方ヲ見「ソ」側ニ於テ交渉開始ノ色ヲ示スニ於テハ之ヲ交渉開始ニ誘導スルコトモ一方法ナルヘキ旨申述

ルト共ニ左記現地停戦及國境劃定ノ具體的方針電報セリ  
(イ) 現地停戦ノ具體案

第一案 兩軍共「ハルハ」河ヲ越エサル約束ノ下ニ停戦スルコト

第二案 已ムヲ得サレハ特定時刻ニ於ケル兩軍第一線ノ位置ヲ越エサルコト若ハ之ヲ基準トシテ双方同一距離ヲ離隔スルコト

(ロ) 國境劃定ニ關スル方針

(一) 交渉ノ目的ハ差當リ現地停戦ニ「ソ」側ヲ誘導スルニ在リ

(二) 國境劃定ノ具體的商議ハ滿蒙間ニ行フ但シ「ソ」側ノ要求アレハ日「ソ」兩國ヨリ「オヴザアヴァー」ヲ出席セシムルモ差支ナシ

右交渉切出ノ時機ニ關シ關東軍及在「ソ」大使ニ於テハ我方カ軍事上大捷ヲ博シテ敵ヲ「ハルハ」河左岸ニ驅逐セル直後ニ交渉ノ開始ヲ爲スハ策ノ得タルモノナルモ其以前ニ話合ヲ始ムルハ不利ナリトテ交渉開始ニ反對ノ模様ナリシカ右ノ如キ好機ハ容易ニ到來スヘシトモ見ヘス、其ノ中諸般ノ情勢上速ニ話合ヲ開始スルコト適當ナリト思料セラル

ルニ至リタルヲ以テ外務省トシテハ軍中央部ヨリノ熱心ナル要求モアリ、當時頻繁ニ行ハレ居タル利權關係ノ交渉ノ機會ヲ利用シテ本件解決方ニ關スル「ソ」側ノ意向ヲ打診シ先方カ乘氣ナルニ於テハ外交交渉ヲ進ムルコトヲ適當ト認メタリ。而シテ關東軍ト軍中央部トノ連絡ハ軍中央部ニ於テ責任ヲ以テ當ルヘシトノコトナリシニ依リ外務省トシテハ軍中央部ノ意向ハ軍ノ意向トシテ取扱フト共ニ軍中央部トハ連絡ニ遺憾ナキヲ期シタリ

八月二十二日利權問題ニ付東郷大使「ロゾフスキー」ト會見ノ際「ロ」ヨリ日「ソ」國交正常化ハ「ソ」側モ希望スル所ナリト云ヘルニ付大使ハ之カ爲ニハ一切ノ諸懸案即漁業問題利權問題國境問題等ヲ解決スルヲ要スト述ヘタル處、「ロ」ハ國境問題ニ付具體的ニ御申出アルニ於テハ「ソ」側ハ之ヲ研究スヘシト答ヘ國境問題ヲ再三持出シタリ右會見ニ於テ「ソ」側ハ外交々々涉ニ依ル事件ノ解決ヲ希望シ居ルコト明瞭トナリタルヲ以テ八月二十八日在「ソ」大使宛現地ノ狀勢ハ最近「ソ」側ノ攻撃ニ對シ我方ハ相當大規模ノ兵力ヲ以テ反撃ヲ開始セルニ付戦局ニ付テハ武官ヨリ聽取ノ上機ヲ逸セス交渉ヲ開始セラレ度旨電報セリ

314

昭和14年9月5日

在英國重光大使より  
阿部外務大臣宛(電報)

ノモンハン事件をめぐる外交交渉開始の見通  
しにつき英國紙報道振り報告

ロンドン 9月5日後発

本省 9月6日後着

第二〇五八號

往電第一〇四八號ノ二ニ關シ

四日莫斯科發「エクスチェンジ」ハ獨蘇協定成立以來同地  
蘇聯官憲ト日獨大使トノ間ニ三回ノ會合アリタル旨傳ヘラ  
ルル處蘇側ハ之ヲ「コンファーム」セス斯ル交渉ニハ多大  
ノ障礙アリト稱シ居ル旨ヲ報シ三日同地發「デーリー、エ  
キスプレス」特電ハ滿蒙國境事件解決ノ爲交渉開始方東郷  
大使ニ訓令アリタル旨ノ東京電アルモ當地日本側ハ獨逸ノ  
勸獎ニ依ル日蘇接近說ヲ一笑ニ附シ支那ニ於ケル共產黨活  
動力越エ難キ障礙ナリト述ヘ居ル旨報シ居レリ本件ハ漸ク  
各國ノ注意ヲ惹キ宣傳ニ使ハレ複雑ナル政治問題ヲ生スル  
惧アルニ付用心ノ要アリト思考ス

315

昭和14年9月16日

ノモンハン事件解決の共同コミュニケに關す  
る情報部発表

付記 欧亜局第一課作成「昭和十四年度執務報告」

より抜粹

阿部内閣成立後のノモンハン事件をめぐる日  
ソ交渉について

日滿蘇蒙衝突事件解決ノ共同「コムミニケ」  
外務省情報部發表

(九月十六日)

最近日本大使東郷氏外務委員「モロトフ」氏間ニ行ハレタ  
ル交渉ノ結果双方即チ日滿側及蘇蒙側ハ左記合意ニ到達セ  
リ。

一、日滿軍及蘇蒙軍ハ九月十六日午前二時(莫斯科時間)ヲ期  
シ一切ノ軍事行動ヲ停止ス

二、日滿軍及蘇蒙軍ハ九月十五日午後一時(莫斯科時間)其ノ  
占メ居ル線ニ止マルモノトス

三、現地ニ於ケル双方軍代表者ハ直ニ本合意(一)及(二)ノ實行ニ

着手ス

四、双方ノ捕虜及屍體ハ交換セラルヘク右ニ付キ現地ニ於ケル双方軍代表者ハ直ニ相互ニ協定シ實行ニ着手ス

尙東郷氏及「モロトフ」氏間交渉ニ於テ最近紛争アリタル地方ノ蒙古國民共和國及滿洲國間國境ヲ明確ナラシムル目的ヲ以テ蘇蒙側代表者二名及日滿側代表者二名ヨリ成ル委員會成ルヘク速ニ組織セラルヘシトノ合意成立セリ同委員會ハ構成後直ニ其ノ事務ニ着手スヘシ

編注 本文書は、昭和十四年十二月、外務省作成「外務省公

表集」第十八輯より抜粋。

## （付記）

阿部新内閣ノ對「ソ」國交調整方針

然ル處獨「ソ」不侵略條約ノ締結ニ引續キ八月三十日平沼内閣退キ、阿部内閣之ニ代ルニ及ヒ新内閣ハ其ノ對外政策ノ中心ヲ支那事變ノ處理ニ置キ東亞新秩序建設ノ既定方針遂行ニ同調協力セシムル如ク第三國關係ヲ調整シ世界ノ變局ニ自主的ニ對處スル方針ヲ樹テ、對「ソ」關係モ亦右ノ

趣旨ニ於テ調整スルコトナリタルヲ以テ同月末在「ソ」

大使ニ對シ我方トシテハ逐次對「ソ」諸懸案ノ解決ニ努力スルコトトシ不取敢「ノモンハン」事件ノ急速解決ヲ圖ル傍ラ滿蒙及滿「ソ」國境全般ニ亘ル國境ノ確定及國境紛争ノ平和的處理ヲ目的トスル委員會設置ヲ考慮スル用意アルト共ニ、他方又「ソ」側カ希望スルニ於テハ日「ソ」通商協定締結ニ付會談開始ノ意向ヲ有スル旨、竝右帝國政府意向ニ付テモ「ノモンハン」事件交渉ノ機會ニ然ル可ク「ソ」側ニ通スル様電報セリ。其後九月三日英佛ト獨逸トノ間ニ戰爭狀態ノ發生ヲ見ルニ至リタルヲ以テ帝國トシテモ此ノ機ヲ逸セス日「ソ」國交ノ一般的調整ヲ圖ルコトトシ、「ノモンハン」事件ノ交渉ヲ機會ニ國交調整ニ關スル我方意向ヲ通セントスル遣り方ヲ變更シテ歐洲ノ新情勢ニ對應スル意味合ニ於テ全般的國交調整ヲ主眼トスル交渉ヲ切出シ其一適用問題トシテ「ノモンハン」事件ヲ併行のニ急速處理スルコトトシ其ノ旨九月四日在「ソ」大使宛電報シ越ヘテ九月六日左記趣旨ノ停戰案ヲ東郷大使ニ訓令セリ

第一案 國境劃定迄「ノモンハン」附近繫争地域ヲ非武裝地帶トス

第二案 一定期間兩軍ハ各々外蒙ノ主張スル線ヲ越エサルコトトスルモ止ムヲ得ス

右實施ノ爲兩軍ハ特定時刻ニ於ケル各々其第一線ノ位置ヲ越エサルコトトシテ先ツ停戦ス但シ兩軍過度ニ近接シアル部分ニ於テ兩軍同時ニ同一距離(約一杆)ヲ離隔ス  
九月八日現地ノ情況ニ鑑ミ前記電報ノ趣旨ヲ左ノ通訂正セリ

#### 第一案 前記非武裝地帶設置案

第二案 國境劃定ニ至ル迄繫爭地域内ニ於テハ兩軍共停戦時ノ第一線ヲ連ヌル線ヲ越エサルコト(停戦時第一線固定案)

第三案 國境劃定ニ至ル迄兩軍共外蒙側ノ主張スル國境線ヲ越エサルコト(最大讓歩案)

右第一案及第三案ノ場合ハ「ノモンハン」附近繫爭地域ニ限定シテ他ノ地域ニハ觸レサルコトトシ已ムヲ得ス「ハングガイ」東南方「アルシヤン」西南方地區繫爭地域ニ觸ル場合ハ此ノ地域ニ限り我軍ハ現在位置ヨリ撤退スルヲ要セサルコトトス

前記第三案ニ據ルノ已ムヲ得サル場合「ノモンハン」附近

繫爭地域ニ於テ外蒙側ノ主張スル國境線トハ左記ヲ意味スルモノトシ之ニ基キ所要ニ應シ「ソ」蒙側ト折衝スルコト追テ左記ハ今次押收「ソ」軍軍用地圖ヲ基礎トシテ記載セルモノ(左記略)

#### (一) 九月九日東郷「モロトフ」會談

先ツ東郷大使ヨリ過日成立セル我新内閣ハ日「ソ」國交ヲ全面的ニ調整センカ爲ニ相互善意ヲ以テ懸案ヲ解決シ度希望ナルニ付「ソ」側ニ於テモ右日本政府ノ希望ニ對應セラルヘキヲ信ス日本政府ハ今日迄ノ紛爭ノ原因タリシ滿「ソ」滿蒙ノ國境ヲ確定シ紛爭ノ原因ヲ除去センカ爲滿洲國政府トモ相談ノ上茲ニ右國境確定ニ付「ソ」政府ニ提議スルモノナリ、右ト共ニ國境紛爭ヲ平和の二解決スル爲紛爭處理委員會ヲ設置スルニ付テモ異存ナシ又「ソ」政府ノ希望アルニ於テハ日「ソ」經濟關係ヲ圓滑ナラシムル爲通商條約交渉ニモ應スヘシト述ヘタルニ對シ「モロトフ」ハ紛爭處理委員會ハ現在及將來ノ紛爭ニ關スルモノナリヤト問ヒ之ニ對シ東郷大使ハ目下「ノモンハン」附近ノ紛爭ハ大規模トナリ日本側ニ於テハ最近大兵力ヲ集中シ近ク大衝突起ラントス若シ大衝突起ル場

合國交調整ハ甚タ困難トナルヘケレハ右衝突カ發生セサルコトヲ希望スルモノナルカ其爲ニハ本使ト貴下トノ間ニ急速ニ話合ヲ着クルヲ要スト述ヘタルニ「モロトフ」ハ日本側ハ「ノモンハン」事件ヲ如何ニ處理セラレントスルヤト反問セリ、東郷大使ハ之ニ對シ「ノモンハン」事件ハ同地方ニ於テ更ニ紛争ノ發生ヲ見ルコトナク且日「ソ」兩國々交ノ改善ニ成ル可ク好影響ヲ齎ス様解決スル爲同地域ヲ非武裝地帶トスルコト最モ適當ナリト答ヘタルニ、「モロトフ」ハ非武裝地帶ノ範圍如何ト問ヘルニ付東郷大使ハ我方ノ主張ニ基キ説明セリ、然ルニ「モ」ハ右地域ハ蒙古領ナリト答ヘタルニ付東郷大使ハ滿洲國ニ於テハ同地域ヲ自國領ト認メ居ルコト右地域ノ歸屬ニ付テハ國境確定ノ際双方好意ヲ以テ論議スルナラハ話纏マルヘキコト依テ「ノモンハン」事件ヲ急速ニ解決スル爲差當リ御互ニ實際の見地ヨリ問題ヲ取扱フヲ要スルコトヲ述ヘ右提案ハ最モ適當ナルニ付至急研究ノ上明日ニテモ回答アリタキ旨ヲ述ヘタルニ對シ「モロトフ」ハ回答ノ期限ニ付テハ御約束出來サルモ御話ノ非武裝區域ハ外蒙領ナルコトヲ御承知アリ度旨述ヘタリ

(二) 九月十日會見

「モロトフ」ハ求ニ依リ往訪セル東郷大使ニ對シ昨日ノ日本側提案ニ對シ政府ノ命ニ依リ回答ストテ

一、「ソ」滿及滿蒙兩國境劃定委員會ノ設置ハ適切ナリ

二、紛争處理委員會ノ設置モ適切ナリ同委員會ハ將來發生

スルコトアルヘキ陸上紛争竝ニ「カムチャツカ」及

「サハリン」ニ於ケル領海侵犯事件ヲ處理スルモノトス

三、通商條約ノ締結ヲ希望ス

四、「ノモンハン」事件ニ付テハ事件發生前ノ狀態ニ返ス

コト「ソ」側ノ趣旨ナリ即チ「ソ」蒙側ノ主張スル國

境線ハ長年ニ亘リ確定シ居ルモノナレハ其ノ内部ニ非

武裝地帶ヲ作ルコトハ不合理ナリ、右國境線ヲ基準ト

シ双方軍隊ヲ撤退スルコトトシ本件ヲ解決スルコトト

致度尤モ日滿側カ外蒙ノ地域ニ關心ヲ持タレ國境近ク

ニ鐵道ヲ敷設セントスルナラハ幅二軒位ノ土地ヲ滿領

ト交換シテ差支ナシト述ヘタリ

右ニ對シ東郷大使ハ紛争處理ヲ「カムチャツカ」及「サ

ハリン」ニ及ホスコトハ新提案ナルヲ以テ東京ニ報告ノ

要アリ、「ノモンハン」事件ニ付テノ「ソ」側ノ現狀<sup>(原カ)</sup>

復案ハ大體ニ於テ昨日我方ノ提議セル所ト一致スト思考ス蓋シ「ノモンハン」地區ニハ外蒙兵駐屯セルコトナク本年三、四月ノ交ヨリ少シツツ侵入シ來リ五月ニ入りテヨリ紛爭トナリ漸次擴大セルモノナルニ付原狀回復トナレハ「ソ」蒙軍ハ「ハルハ」河左岸ニ撤退スルコトトナルヘシ、日滿軍ハ紛爭發生前ニモ「ノモンハン」地方ニ駐屯セルカ如キモ昨日ノ我方提議ハ此ノ點ニ拘泥セサルヲ以テ双方武裝兵力立入ラサル様地域ヲ定ムルヲ適當ト思考スト述ヘタルニ「モロトフ」ハ國境ハ「劃定」スルニ非ス「再劃定」ナルコトヲ明ニスルヲ要スト述ヘタル後滿蒙國境ハ紛爭發生前ノ國境ニ依ルコトトスヘク日本政府力右ニ同意サルルニ於テハ「ソ」聯軍隊ハ右ノ線ヨリ撤退スヘシト述ヘタリ

於茲東郷大使ハ右「ソ」政府ノ提議ハ遺憾乍ラ之ヲ應諾スルヲ得ス蓋シ

(一) 「ソ」側ハ國境ハ既ニ確定セリト云フモ地圖等ニ依ルモ未タ確定シ居ラサルコト明カナリ

(二) 從テ「ノモンハン」地方カ滿蒙兩國間ノ繫爭地域トナリ居ルモノニシテ非武裝化出來ストノ「ソ」側主張

ハ成立セス

之二對シ「モ」ハ「ソ」政府ハ日本トノ良好關係ヲ希望スルモ昨日ノ日本側提議ハ受諾スル能ハスト答ヘタルヲ以テ東郷大使ハ「ソ」側ハ一方の二國境劃定セリトシ之ヲ日滿側ニ押付ケントスル處、此ノ如キ態度ヲ執ルニ於テハ遂ニ力ト力トノ爭トナルヘキニ付此ノ際國境劃定ノ如キ問題ニ拘泥セス現地ノ不穩ノ空氣ヲ平靜化スル要アルナリト述ヘタリ

(三) 九月十四日會見

東郷大使ハ「モロトフ」ニ對シ我方トシテハ外蒙ノ主張スル國境ヲ此際承認スルコトヲ得スト前提シ左記案ヲ提出セリ

一、「ノモンハン」附近地域及「アルシヤン」西南方地域ニ於ケル事態ハ一九三九年五月一日前ニ遲滞ナク回復セラルヘシ但シ「ハンダガヤ」街道ノ安全及交通ハ日滿側ノ爲ニ完全ニ維持セラルヘシ

二、前項ノ目的ヲ以テ日滿軍及「ソ」蒙軍ハ一九三九年九月、日、時現在ノ線ニ於テ戰爭行爲ヲ停止スヘシ

三、双方ノ捕虜及死體ハ交換セラルヘク右ニ付テハ速ニ兩

軍代表者間ニ於テ協定セラルヘシ

右案ヲ提示スルト共ニ大使ハ本案ハ國境問題ニ觸レサル點以外ハ「ソ」聯ノ提案ト同趣旨ナリト説明セルニ「モ」ハ外蒙ノ主張スル國境線ハ五月一日前ニ於テモ存在シ居タルニ付日本側ニ於テモ之ヲ承認セラルルコト絶對ニ必要ナリト主張シ長時間ニ亘ル論議トナリタルカ先方譲ラス、依テ大使ハ「ソ」側ノ態度此ノ如クナル以上原狀回復ニ依ル妥結ハ不可能ナレハ本件處理上唯一ノ殘レル方法ハ双方トモ一定時ノ現在線ニ止マリ戰鬪ヲ中止スルニ在リ右ニ付「ソ」側ノ贊否承リ度シト述ヘタル處「モ」ハ考慮ノ後回答スヘシト述ヘタリ

(四) 九月十五日會見

「モ」ハ昨日ノ日本側第二提議即停戰案ニ對シ回答ストテ「ソ」政府ハ同提議ノ受諾可能ナリ就テハ  
(一) 「ソ」聯軍及日滿軍ハ九月十五日午後十時(地方時間)ヲ期シ「ノモンハン」地方ニ於ケル一切ノ軍事行動ヲ停止シ且右時刻ニ於テ其ノ占メ居ル線ニ止マル  
(二) 最近軍事行動アリタル地方ノ滿蒙國境ヲ明確ニスル爲二三日中ニ「ソ」蒙側及日滿側代表夫々二名ヨリ成

ル聯合委員會ヲ設置ス同委員會ヲシテ其ノ構成後直ニ事務ニ着手セシムルコトトシテハ如何ト言ヘルニ付大使ハ

(一) 停戰時ヲ午後十時ニ定メラレントスル理由ハ承知セサルモ停戰ニ關スル主義的瞭解成立セル以上右成立ノ時刻即本日午後一時現在線ヲ以テ双方軍隊カ止マルコトトスルコト適當ナリ

(二) 右停戰ノ合意成立ノ上ハ之ヲ東京及現地ニ通達スル時間ヲ考慮ニ入レ明十六日零時ヲ期シ戰鬪行爲ヲ停止スルコト適當ナルヘク

(三) 双方軍隊カ過度ニ接近シ居ル地區ニ於テハ双方同時ニ一軒宛後退スル様取極ムル要アリ但シ右ハ性質上現地ニ於テ定ムルコトト致度

(四) 双方軍隊代表者間ニ於テ本件取極ノ實行ニ當ルコト及双方捕虜及屍體ヲ交換スルコトトシ之ニ付現地軍代表者間ニ於テ協定スルコトト致度シト述ヘタリ

次テ「モロトフ」ハ双方合意ニ基キ今直ニ案文作成可能ナリヤ又ハ請訓ノ要アリヤト問ヒタルニ付東郷大使ハ停戰ノ形式ニ付テハ張鼓峯事件ノ場合ト同様書物ニ依ラス

口約トスル方適當ナリト思考スル處右方法ニ依ルニ於テ  
ハ大使限リニテ今直ニ明確ニ約束スルコト差支ナシト述  
ヘタルニ「モ」之ニ同意セリ

於茲大使ハ停戰ニ關スル原則的ノモノノミヲ直ニ彼我ノ  
間ニ決定シ細目ハ現地双方軍代表者間ニ於テ取極ムル様  
致度トテ左記回答即チ

(一) 日滿軍及「ソ」蒙軍ハ九月十六日午前二時(莫斯科  
時間)(註此時既ニ午後二時過トナレルニ依リ双方軍  
ノ戰鬭停止ヲ十六日午前二時ニ變更セルナリ)ヲ期シ一切  
ノ軍事行動ヲ停止ス

(二) 日滿軍及「ソ」蒙軍ハ九月十五日午後一時(莫斯科  
時間)其ノ占メ居ル線ニ止マルモノトス

(三) 現地ニ於ケル双方軍代表者ハ直ニ本合意(一)及(二)ノ實  
行ニ着手ス

(四) 双方ノ捕虜及屍體ハ交換セラルヘク右ニ付現地ニ於  
ケル双方軍代表者ハ直ニ相互ニ協定シ實行ニ着手ス  
ヲ申入レタル後國境確定委員會ノ件ハ貴方ニ於テハ此ノ  
際一般國境劃定委員會ト別個ニ委員會ノ設置ヲ飽迄主張  
セラルルヤト問ヒタル處、「モ」ハ「ソ」側ニ於テハ其  
ノ從來主張セル「再劃定」ナル文字ヲ使用スルヲ避ケ單

ニ「明確ニス」トノ文字ヲ使用シ居ル次第ニモアリ此ノ  
際日本側提議ニカカル國境劃定委員會トハ別個ニ混合委  
員會ノ設置ヲ強ク主張スト答ヘタルニ付大使ハ本件「ソ」  
側提議ニ主義上同意スルモ二、三日中ニ委員會ヲ設クル  
事技術的ニ不可能ナルニ付「成ルヘク速ニ」之ヲ設置ス  
ルコトト致度ト主張シ「モ」之ニ同意セリ

次テ「モ」ハ日本側主張中ニハ「近接地區ニ於ケル双方  
一料後退」トアル處軍當局ノ話ニ依レハ近接地區ナク最  
モ接近スル箇所ニテモ五、六料ノ距離アル由ナレハ本件  
貴使申入レハ不必要ナルヘシト云ヘルニ付大使ハ近接地  
區ナシト「モ」ノ言明ニ信賴シテ本件申入ヲ撤回セリ  
右ニテ合意成立セルニ付左記共同發表案ヲ作製シ之ヲ十  
六日午前三時ニ發表スルコトセリ



316

昭和14年11月21日

### 臨時滿蒙國境確定委員會開催に関する情報部

#### 発表

付記 欧亜局第一課作成「昭和十四年度執務報告」

より抜粋

右委員会の設置について

臨時滿蒙國境確定委員會開催ニ關スル情報部發表

(十一月二十一日)

去ル九月十五日東郷大使、「モロトフ」、「ソ」聯外務人民委員間ニ締結サレタ「ノモンハン」事件停戰協定ニ於テ最近紛争發生セル地方ノ滿蒙國境ヲ明確ナラシムル目的ノ下ニ日滿蘇蒙代表ヨリ成ル國境劃定委員會ヲ組織スヘキ旨ノ合意カ成立シタカ之ニ引續キ兩者間ニ同委員會ノ構成及業務等ニ關スル基礎交渉力行ハレタ結果十一月十三日大體意見ノ一致ヲ見タ。

依ツテ日本側ハ久保田哈爾賓總領事、滿洲國側ハ龜山外務局政務處長、蘇側ハ「ボグダーノフ」第一軍兵團參謀長、外蒙側ハ「ジヤムサロン」首相代理ヲ夫々代表トシテ臨時滿蒙國境劃定委員會ヲ開催スル運ヒトナツタ同委員會ハ前半ヲ「チタ」ニ於テ後半ハ哈爾賓ニ開催スル事トナツテ居リ第一回會合日カ本月二十九日ト決定シタノテ日滿側委員一行ハ今月下旬新京發「チタ」ニ赴ク事トナツタ。

尙日滿側代表及補佐員氏名ハ左ノ通りテアル。

## (一) 委員

日本側委員

在哈爾賓總領事 久保田 貫一郎

滿洲側委員

外務局政務處長 龜山 一二

## (二) 補佐員

日本側

陸軍歩兵少佐 三品 隆以

陸軍工兵少佐 笹井 博一

在滿大使館外交官補 高野 藤吉

同 外務書記生 志水 志郎

滿洲側

外務局調査處第一科長外務局理事官 吉津 清

興安局調査課長興安局參事官 薩<sup>サ</sup>嘎<sup>カ</sup>拉<sup>ラ</sup>札<sup>ジャ</sup>布<sup>ツ</sup>

治安部事務官 河瀬 侍郎

外務局高等官試補 北川 四郎

同 劉 猷 權

外務局屬官 荻野 義人

## 編注

本文書は、昭和十四年十二月、外務省作成「外務省公表集」第十八輯より抜粋。

## （付 記）

### 紛争地域滿蒙國境確定委員會ノ設置

「ノモンハン」停戦申合ノ追加條項中ニ規定セラレタル本件「最近紛争アリタル地域ノ滿蒙國境」ヲ明確ナラシムルタメノ國境確定委員會ニ關シテハ九月十五日ノ東郷「モロトフ」會見ニ於テ「ソ」側ヨリ本件委員會ノ急速ナル設置ヲ停戦條件ノ一ト爲スコトヲ強ク主張セル處、右ハ「ソ」側從來ノ態度即日滿側ハ外蒙ノ主張セル國境線ヲ其儘認ムヘシトノ主張ニ比シ大ナル讓歩ニシテ又今次事件ノ發生カ國境ノ不明確ナルニ基因ストノ我方主張ヲ認メタルモノナルヲ以テ我方モ右「ソ」側ノ提議ヲ容レテ右委員會ノ設置ニ同意セリ但シ右ヲ停戦條件ノ一ト爲スコトニ付テハ我方ヨリ右ハ直接停戦ニ關係スルモノニ非ストノ理由ニ依リ反對シ、結局共同「コンミュニケ」ニアル如ク停戦ノ附帶條件ト爲シタリ

九月二十六日東郷大使ヨリ「モロトフ」外務人民委員宛本件國境確定委員會設置ニ關スル左記我方案文ヲ手交スルト共ニ我方トシテハ本件委員會ノ設置ヲ急速ナラシムル必要

上嚴重ナル形式ニ依ラス停戦申合同様ノ形式ニ依リ取纏ムルコトヲ希望スル旨竝ニ本委員會ハ一般的國境確定委員會トハ別個ニ設置セラルルモノニシテ一般的國境確定委員會設置ノ上ハ本件委員會ノ事業ハ右ニ接收セラルヘキ旨述べタル處、「モ」ハ即座ニ氣付キタル諸點ニ付我方案文ノ訂正ヲ求メ更ニ研究ノ上尙訂正方申出ツルコトアルヤモ知レスト述ヘタリ

「最近紛争發生セル地域ノ滿蒙國境確定委員會ノ事業ハ追テ構成セラルヘキ一般的滿蒙國境確定委員會ニ接收セラルヘシ

但シ右接收ニ至ル迄ノ間ニ於テ本委員會カ決定セル國境線ハ變更セラルルコトナカルヘシ

三、本委員會ハ日本國一名滿洲國一名ヲ一方トシ「ソヴィエト」聯邦一名外蒙古國一名ヲ他方トスル委員ニ依リ組織セラルヘシ

三、日滿側委員及「ソ」蒙側委員ハ夫々十名ヲ超エサル専門家、技術員及通譯ヲ帶同スルヲ得

四、國境確定ノ範圍ハ最近紛争ノアリタル地域ノ滿蒙國境トス

五、委員會ハ公ノ權威アル文獻、地圖及其他ノ資料ヲ基礎トシ國境ヲ確定スルモノトス

六、國境確定ニ至ル迄ハ日滿及「ソ」蒙側ハ相互ニ停戰時ニ右双方軍隊ノ占メタル線ヲ越ユヘカラス

七、本委員會ノ業務ノ實施ニ關スル細目及國境ヲ明確ナラシムル爲ノ界標ノ設置竝ニ其他ノ措置ニ付テハ委員會ニ於テ之ヲ決定スルモノトス

八、本委員會ノ作成スヘキ記錄ニ付テハ委員會之ヲ決定スヘシ

九、委員及補佐員ハ相手國領土内ニ於テ身體及文書ノ不可侵ヲ享有シ課税及公課ヲ免除セラレ其ノ任務ノ遂行上必要ノ都度相手國領土ニ立入ルコトヲ許可セラレ又制服ヲ着用シ其ノ身分ニ屬スル武器ヲ携行スルコトヲ得ヘク且宿舍、通信及交通ニ付便宜ヲ供與セラルヘシ

十、本委員會共同ノ費用ハ双方ニ於テ均等ニ分擔スルモノトス

十一、委員會ノ議事ハ秘密トス委員會ノ議事又ハ業務ニ付發表ノ要アルトキハ双方委員ノ承諾ヲ得タル「コミユニケ」ヲ以テ之ヲナスモノトス

十二、本委員會ハ其ノ第一回會合ヨリ一ヶ月以内ニ圖上確定ヲ完了シ爾後成ル可ク速カニ現地作業ニ着手スヘキモノトス

十三、本委員會ハ成ル可ク速カニ會同スヘシ第一回會同地ハ滿洲里トス

十四、本委員會及補佐員ノ任命ハ政府間ニ相互ニ通告セラルヘシ

十五、本申合ハ秘密トス

右我方案文ニ付其後日「ソ」間ニ行ハレタル主タル論點ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 右案文第四項國境確定ノ範圍タル「最近紛争ノアリタル地域」ノ具體的内容

右ニ付我方ハ當初左記二案ヲ用意セリ

第一案 「ボイル」湖以東「ソヨルヂ」山ニ至ル滿蒙國境

第二案(最終案) 「ボイル」湖以東ヨリ「アルシャン」

河南方戰鬪地區(一〇三一高地)附近ニ關聯スル地帶

(「ネメルゲン」河東方地帶ノ北部)ノ滿蒙國境

十月十日「ロゾフスキー」外務人民委員代理ハ東郷大使

トノ會見ニ於テ戰鬪ノアリタルハ「ノモンハン」地域ノミナリト述ヘタルヲ以テ大使ヨリ「一〇三一」高地及其ノ南方ニ於テ戰鬪行ハレタ旨述ヘ置キタル處、十三日「ロ」ハ日滿側ノ所謂「アルシヤン」河南方地域ハ「ソ」側ノ所謂「ゾシエン」河(別名「メイシン」河)附近地域(同地域ニハ高地二二〇〇、一五〇〇(一〇五〇ノ間違カ)、一〇七五、一一〇〇、一〇七七、九六〇及一〇一七アリ)ヲ指スモノト解シ之ヲ今次國境確定委員會ノ事業範圍ニ加フルコトニ同意スト述ヘタリ

右ニ對シ大使ハ「アルシヤン」河南方地域カ今次紛争地域ニ包含セラレ居ルコトハ「モロトフ」トノ間ニ既ニ了解濟ナル旨述ヘ兎ニ角「ソ」側ノ所謂「ロシエン・ゴール」河附近地域カ「アルシヤン」河南方地域ト合致ストスレハ夫レニテ結構ナリト述ヘタルニ「ロ」ハ右地域ノ檢討ハ寧ロ委員會ニ於テ決定スヘキモノナリト應シタルニ依リ大使ハ紛争發生地ノ認定ハ委員會ニ於テ之ヲ爲スヘキ性質ノモノニアラス右ニ關シテハ既ニ「モロトフ」トノ間ニ諒解成立セルニ依リ「ロ」カ「ロシエン・ゴール」河附近ハ「アルシヤン」河南方地域ト完全ニ一致ス

ト言明セハ問題ハ解決ストテ地圖ニ付「ロシエン・ゴール」河附近地域ノ説明ヲ求メタキ旨申入レタルニ先方ハ地圖ヲ持出シタルモ満足ナル説明ヲ爲シ得ス専門家ニ付取調ノ上後日回答方約セリ、然ルニ其後「ソ」側ヨリ此點ニ關スル回答ナク徒ラニ斯カル問題ノ爲兩國間國交調整ヲ遷延スルハ不得策ト思考シタルニ付我方トシテハ本件地域ヲ豫メ具體的ニ明定スルコトヲ止メ「最近紛争アリタル滿蒙國境」ナル漠然タル區域トシタル儘會議ニ臨ミ「アルシヤン」河南方地區ハ結局政治的交渉ニ依リ解決スルコトニ方針ヲ決定セリ。十一月十三日東郷大使トノ會見ニ於テ「モロトフ」ハ日本側カ「ノモンハン」地域以外特定ノ地域ヲモ紛争地域ニ加フヘキコトヲ希望スルニ於テハ文書ニ依リ申出アリ次第充分研究ノ上回答スヘキ旨述ヘタル處、大使ハ委員會ノ事業地域カ紛争アリタル場所附近ノ地域ナルコトニ付テハ明約アリ「アルシヤン」河南方「一〇三一」高地ニ於テモ紛争アリタルコトハ明白ナルニ依リ右地域ヲモ之ニ包含セシムルコトハ當然ニシテ具體的ニハ「ネメルゲン」河以東外蒙カ自己ノ領域ニ屬スト主張セル地域ヲ包含セルモノナリト述

ヘタル處「モ」ハ右地域ノ餘リニ廣大ナルニ驚愕ノ色ヲ示シタル趣ニシテ結局本委員會ハ紛争アリタル場所ヲ調査シ「ノモンハン」地域以外ニモ之ニ該當スルモノアルコト明カトナリタルトキハ右場所附近ノ地域ニ付テモ國境ヲ確定スルコトノ諒解ヲ附スルコトトシタシト述ヘタルニ對シ「モ」ハ之ニ同意セリ

## (二) 第五項、國境確定ノ基礎資料ノ範圍ニ關スル問題

右ハ解決最モ困難ナリシ點ニシテ我方ハ「公ノ權威アル文獻、地圖及其他ノ資料」ヲ基礎トシテ國境ヲ確定スヘシト主張シタルニ對シ「ソ」側ハ右ノ中「其他ノ資料」ナル語ハ其ノ内容明確ナラサル爲徒ニ誤解ヲ招キ委員會ノ事業ヲ複雑化スルニ過キスト爲シテ之カ削除ヲ強硬ニ主張シ之ニ對シ我方ハ滿蒙間ノ境界ハ滿洲國ノ獨立以前ハ單ナル支那國內ノ行政區劃ニ過キス又滿洲國獨立後ト雖モ國境條約ノ如キモノモ未タ成立シタルコトナキ故ニ往年ノ行政事情等ヲモ參酌スル必要アリトテ滿側ヨリノ強硬ナル要求モアリ右ノ存置方ヲ極力主張セリ。然ルニ「ソ」側ハ如何ニ議論ヲ重ヌルモ頑トシテ我方要求ヲ容レズ、此ノ點ニ關スル「ソ」側ノ確認ヲ俟チテ「チタ」

會議ヲ開クトセハ結局會議ノ開催ヲ不可能又ハ遷延セシムル惧アリタル處、右問題ハ決裂ヲ賭シテ迄争フ價值ナク又對英米牽制ノ觀點ヨリモ成ル可ク速ニ「チタ」會議ヲ開キ日「ソ」國交調整ノ第一歩ヲ踏出スコト望マシカリシニ依リ張鼓峯事件ノ際ノ例ニ倣ヒ右ヲ明文化スルコトヲ止メ了解事項ト爲スモ已ムヲ得ストノ肚ヲ定メ十一月二日東郷大使ヨリ「モロトフ」ニ對シ「委員會ハ公ノ權威アル文獻及地圖ヲ基礎トシ且其ノ他ノ資料ヲ參酌シ國境ヲ確定スルモノトス」トノ案ヲ提議セル處「モ」ハ右日本側讓歩案ヲ以テ原案ト殆ト同一ナリトテ受諾ヲ肯セス、依テ東郷大使ヨリ新案ハ「其ノ他ノ資料」ヲ第二次のモノトシテ考慮ニ加フルモノナルヲ以テ相當ノ差異アリ客年張鼓峯事件ニ關聯シ此ノ種問題發生セル際當時ノ外務人民委員ハ「双方ハ其ノ他ノ資料ヲ委員會ニ提出シ委員會ハ其ノ價值ヲ決定ス」ト爲スコト迄承諾セルニ拘ラス今回「モ」カ「其ノ他ノ資料」ナル文句ノ削除ヲ要求スル理由ヲ了解シ得サル旨述ヘタル處「モ」ハ張鼓峯事件當時ノ國境委員會交渉ニ關スル新聞發表ヲ持出し右ノ如キ「リトヴィノフ」ノ了解事項ハ何等記載サレ

居ラスト應酬セリ依テ大使ハ右了解カ「リ」ト重光大使  
トノ間ニ成立セル事實ハ當時ノ記錄ニ付調査セハ直ニ判  
明スヘシトテ我方案ニ同意方再考ヲ求メタルモ「モ」ハ  
右ノ決定ヲ以テ最終ニシテ再考ノ餘地ナキ旨答ヘタリ。  
越エテ十一月十一日東郷大使ヨリ「モロトフ」ニ對シ  
「公ノ權威アル文獻及地圖ヲ基礎トシ現地ニ於ケル諸條  
件ヲ參酌ス」トノ「フオーミュラ」ヲ持出シ交渉シタル  
處「モ」右ヲ受諾セス結局「其ノ他ノ資料ハ双方代表ニ  
於テ委員會ニ提出スルコトハ自由ニシテ其ノ價值ハ委員  
會ニ於テ決定ス」トノ口頭了解ヲ附スルコトトシテ妥結  
セリ

### (三) 第十三項ノ會議地ノ問題

右會議地選定ニ關シ我方ヨリ滿洲里ヲ提議セル處「ソ」  
側ハ數年前滿洲里ニ於テ委員會開催セラレタルコトアル  
モ右ハ失敗セリトテ「チタ」ヲ主張シ結局會議ノ前半ハ  
「チタ」市ニ於テ後半ハ哈爾濱市ニ於テ之ヲ行フコトニ  
決定セリ

以上主要ナル難點ニ付兩國間ニ妥協成立シタルヲ以テ十一  
月十九日東郷大使ハ「モロトフ」ヲ往訪左記「テキスト」

ニ「イニシアル」ヲ了セリ

一、最近紛爭發生セル地域ノ滿洲國及蒙古人民共和國間國境  
確定委員會ノ事業ハ追テ構成セラルヘキ一般の右兩國間  
國境確定委員會ニ接收セラルヘシ但シ本委員會カ右接收  
ニ至ル迄ノ間ニ於テ決定セル國境線ハ變更セラルルコト  
ナカルヘク最終的ニ決定セルモノト認メラルヘシ

二、本委員會ハ日本國一名滿洲國一名ヲ一方トシ「ソヴィエ  
ト」聯邦一名蒙古人民共和國一名ヲ他方トスル委員ニ依  
リ組織セラルヘシ

三、日滿側委員及「ソ」蒙側委員ハ夫々十名ヲ超エサル専門  
家、技術員及通譯ヲ帶同スルヲ得

四、國境確定ノ範圍ハ最近紛爭發生セル地域ノ滿洲國及蒙古  
人民共和國間國境トス

五、委員會ハ公ノ權威アル文獻及地圖ヲ基礎トシ國境ヲ確定  
スルモノトス

六、國境確定ニ至ル迄ハ日滿及「ソ」蒙側ハ相互ニ停戰時ニ  
右双方軍隊ノ占メタル線ヲ越ユヘカラス

七、本委員會ノ業務ノ實施ニ關スル細目及國境ヲ明確ナラシ  
ムル爲ノ界標ノ設置竝ニ其他ノ措置ニ付テハ委員會ニ於

テ之ヲ決定スルモノトス

ハ、本委員會ノ作成スヘキ一切ノ記録ニ付テハ委員會之ヲ決定スヘシ

九、委員及補佐員ハ相手國領土内ニ於テ身體及文書ノ不可侵ヲ享有シ課税及公課ヲ免除セラレ其ノ任務ノ遂行上必要ノ都度相手國領土ニ立入ルコトヲ許可セラレ又制服ヲ着用シ其ノ身分ニ屬スル武器ヲ携行スルコトヲ得ヘク且宿舎、通信及交通ニ付便宜ヲ供與セララルヘシ

十、本委員會共同ノ費用ハ双方ニ於テ均等ニ分擔スルモノトス

十一、本委員會ノ議事ハ秘密トス委員會ノ議事又ハ業務ニ付發表ノ要アルトキハ双方委員ノ承諾ヲ得タル「コミニケ」ヲ以テ之ヲナスモノトス

十二、本委員會ハ成ル可ク最短期間ニ而シテ其ノ第一回會合ヨリ一ヶ月ヲ超エサル期間内ニ圖上確定ヲ完了シ爾後成ル可ク速ニ現地作業ニ着手スヘキモノトス

十三、本委員會ハ成ル可ク速ニ其ノ會議ヲ開始スヘシ委員會會議ノ前半ハ「チタ」市ニ於テ委員會會議ノ後半ハ哈爾賓市ニ於テ之ヲ行フ委員會ノ「チタ」市ヨリ哈爾賓市ヘ

ノ移轉時ハ委員會自ラ之ヲ決定ス

十四、委員及補佐員ノ任命ハ政府間ニ相互ニ通告セラルヘシ  
十五、本申合ハ秘密トス

右「テキスト」ニ「イニシアル」セル際「モロトフ」ヨリ

(一) 日本軍ハ「ネメルゲン」河ト「ハルハ」河ノ間ニ於テ外蒙領ヲ約五杆不法占據シ居ル處「ソ」側トシテハ強力ニ依ル占據ハ承服シ難シ

(二) 合意ニ依リ若シ日滿側ノ鐵道建設ニ必要ナルニ於テハ二、三杆ノ外蒙領ト交換シ得ヘシ

ト述ヘタルニ對シ東郷大使ヨリ日本軍カ外蒙領ニ侵入セリト云フモ右ハ停戰時ノ線ニ止リ居ル次第ニシテ右地域カ外蒙ニ屬スルヤ否ヤヲ決定スルコトハ委員會ノ任務ナリト應酬セリ、尙其ノ際大使ヨリ日滿側ハ「チタ」ニ於ケル第一回國境確定會議ハ十一月二十九日ト致シ度キ意向ヲ有スル旨述ヘタルニ對シ「モロトフ」ハ一應之ヲ了承セルモ其後「ソ」側ノ都合ニ依リ第一回會議日ハ十二月七日ニ延期セラレタリ

~~~~~

昭和十四年十二月九日

チタ會議第一回會談に関する共同コミュニケ

付記 欧亜局第一課作成「昭和十五年度執務報告」

より抜粋

チタ會議について

「チタ」會議第一回會談ニ關スル共同「コムミニケ」
外務省情報部發表

(十二月九日)

昭和十四年十二月七日「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦
領「チタ」市ニ於テ最近紛爭アリタル地域ニ於ケル滿洲國
竝ニ蒙古人民共和國間國境確定ニ關スル東郷「モロトフ」
間ニ於テ成立セル協定ニ基キ日滿蘇蒙混成委員會會議開催
セラレタリ會議ハ「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦全權
委員M・A・「ボグダーノフ」少將之ヲ開ケリ挨拶ノ交換竝
ニ政府全權書類ノ相互檢討ノ後委員會ハ爾後ノ事業ノ順序
竝ニ手續ノ審議ニ着手セリ

編注 本文書は、昭和十四年十二月、外務省作成「外務省公

表集「第十八輯より抜粋。

(付記)

「チタ」會議

「チタ」會議ハ昭和十四年十二月七日ヨリ同二十五日迄開
催セラレタルカ同會議ニ於テ

(一)「ノモンハン」地區ニ關シ我方ハ終始地圖ヲ根據トシ
テ議論ヲ爲シ殊ニ一九一八年支那參謀本部作成ノ地圖ヲ
其根據トナセリ即一九一三年ノ露支交換公文ニ依リ露支
兩國ハ蒙古ニ關スル精確ナル地圖ナク行政區劃モ不確定
ナルコトヲ認め又一九一三年露支交換公文、一九一五年
露蒙支三國條約及一九二四年「ソ」支條約ニ依リ少クト
モ一九一八年當時ハ外蒙古ハ獨立國家ニ非ス支那行政區
劃ノ一部分ナリシ故ニ支那政府ハ其主權ノ發動ニ基キ滿
洲ト外蒙古トノ境界ヲ定メタルモノニシテ其以前ニ如何
ナル劃界アリトスルモ其ハ凡テ歷史的興味ノ對象タルニ
過キササルヲ以テ日滿側ハ支那政府ノ一九一八年ノ決定セ
ル境界即チ「ハルハ」河ヲ以テ國境トナスハ最モ正當ナ
リト主張セルニ對シ「ソ」蒙側ハ一九一八年ノ支那參謀

本部地圖ハ一九一一年ニ既ニ獨立ヲ宣言セル蒙古共和國ノ權利ヲ侵害シ一九一五年「キヤフタ」條約第十一條ノ外蒙古ノ國境ハ露支蒙ヨリ成ル三國委員會ヨリ劃定セラレヘキ條項ニ違反スルカ故ニ無効ニシテ且一九一八年ニ支那參謀本部カスカル決定ヲナセシ根據タル歴史の文獻ヲ缺如ストテ日滿側ノ主張ヲ反駁シ他方「ソ」蒙側ハ一九一一年ノ黑龍江全省輿圖ヲ基礎トシ之ニ基ク一九三五年ノ赤軍參謀本部地圖及一九三七年外蒙古學士院作成ノ地圖ヲ提出シ外蒙古ハ一九一一年ニ獨立セルカ故ニ支那地圖ハ其以前ノモノノミ權威アリ且一九一一年ノ黑龍江全省輿圖ハ歴史の文獻ニ根據ヲ有スルモノナリトシ結論トシテ該地方ノ國境ハ原則トシテ「ハルハ」河ノ北及東ニアリト主張セリ

(二)「アルシヤン」河南方地區ニ關シテハ我方ハ「ネメルゲン」河ヲ遡リ「ソヨルヂ」山ニ至ル線ヲ國境線ナリト聲明セルニ對シ「ソ」蒙側ハ莫斯科ニ於ケル「モロトフ」ノ東郷大使ニ對スル聲明ト同シク「アルシヤン」河ヲ以テ國境トナシ該地區ニ於ケル日滿軍ノ不法占據ヲ認めサルト共ニ鐵道敷設ノ爲ニ、三籽ノ地區ノ替地ヲ條件トシ

テ審議スル以外何等權限ナキ旨ヲ聲明セリ

斯クテ「チタ」會議ニ於テハ總計日滿側十八種、「ソ」蒙側二十三種ノ地圖ヲ提出セルモ我方ハ一九一八年ノ支那參謀本部地圖、「ソ」蒙側ハ一九一一年黑龍江全省輿圖及一九三五年ノ赤軍參謀本部地圖ヲ根據トシ結局議論ハ互ニ相手ノ地圖ヲ否認シ自己ノ地圖ヲ權威付ケル重要ナ論點タル蒙古ノ獨立ヲ繞リテ展開セラレ「アルシヤン」河南方地區ニ關シテハ何等實質の議論ヲナサス單ニ該地區カ自國領ナルコトヲ聲明セシノミニシテ最後ニ「ソ」蒙側ハ地圖ニテハ議論ハ盡キサル故ニ地圖ノ根據ヲナス歴史の文獻ヲ哈爾濱ニ於ケル會議ニ於テ爲サント提議シ我方ハ斯カル歴史の文獻ハ一九一三年ノ露支交換公文ニ依リ其ノ權威ヲ否認サレタルモノニシテ何等本委員會ノ確定事業ノ基礎タリ得サルモノナリト應酬セル儘「チタ」會議ハ閉會トナレリ

~~~~~

318 昭和15年1月8日

### ハルビン會議開催に関する情報部発表について

付記 欧亜局第一課作成「昭和十五年度執務報告」

より抜粋

ハルビン會議について

滿蒙國境確定混成委員會に關する外務省情報部發表

(昭和十五年一月八日)

混成委員會第九回會議は昭和十五年一月七日哈爾濱市ホテル・ニューハルピン(日滿代表部宿舍)に於て龜山滿洲國政府委員主催の下に開催せられ國境線の圖上劃定に關する問題の審議を續行せり

次回會議は來る一月十日蘇蒙代表部宿舍に於て開催せらるへし

## (付記)

哈爾濱會議

次テ哈爾濱會議ハ一月七日ヨリ同三十日迄開催セラレタルカ同會議ハ最後ニ至リ相當ノ波蘭ヲ見セタルモ結局議論對立ノ儘閉會トナレリ同會議前半ニ於テ

(一)「ノモンハン」地區ニ關シ「ソ」蒙側ハ一七三四年ノ扎克丹及一八五八年ノ景綸ノ地圖其他二、三ノ文獻ヲ提示シ自己ノ主張ニ歴史的根據アルコトヲ示サント試ミタ

ルモ日滿側ハ其地圖竝ニ文獻ノ或ハ不正確ナルカ或ハ曖昧ナル點ヲ衝キ結局一九一三年ノ露支交換公文ニ依リ何等本委員會ノ確定事業ノ基礎タリ得サル所以ヲ說キタリ

(二)「アルシヤン」河南方地區ニ關シテハ「ソ」蒙側ハ莫斯科交渉及現地停戰協定ノ經緯ニ鑑ミ論議ヲ避クルニ非スヤト思ハレタルモ簡單ニ之カ審議ニ應シ且雙方共貧弱ナル資料ニテ一回宛論議ヲナセルノミニシテ雙方共從來ノ主張ヲ繰返シタリ

上記ノ如ク會議前半ニ於テ日滿側ハ「ノモンハン」地區ニ關シ五分五分ノ議論ヲ闘ハシ又「アルシヤン」河南方地區ニ關シテハ「ソ」蒙側ハ論議ヲ避クルニ非スヤト思ハレ且論議スルモ我方カ相當手痛キ攻撃ヲ受クルニ非スヤト思ハレタルニモ拘ラス簡單ニ「ソ」蒙側ハ之カ論議ニ應シタルノミナラス何等有力ナル攻撃ヲ與フルコトヲ得ス概ネ我方ノ作戰通り否豫期以上ノ成果ヲ收メ得タルヲ以テ愈々茲ニ最後ノ段階タル政治的妥協ニ入ラントシ我方ハ一方文書ヲ以テ從來ノ主張ヲ申入ルルト共二月十九日ノ第五回會議ニ於テ「議論ハ對立シ事務的ニ解決不可能ナル故ニ双方カ政府ノ訓令ニ基キ其具體案ヲ次回會議ニ提出センコト」ヲ

提議セリ然ルニ第六回會議（一月二十二日）ニ於テ雙方ハ先ツ相手ヨリ先ニ妥協案ヲ提出セシメントシテ譲ラス結局同二十二日午後十時雙方同時ニ文書ヲ以テ其妥協案ヲ交換スルコトトナリタルカ日滿側ハ「アルシヤン」河南方地區ニ於テ「ネメルゲン」河第二支流以南ヲ讓リ「ノモンハン」地區ニ關シテハ全然讓步セサル案ヲ提示セルニ「ソ」蒙側ハ白々シクモ「アルシヤン」河南方地區ニ關スル從來ノ主張ヲ其儘文書ニ認メテ送付スルノ背信行爲ヲ敢テセリ此頃ヨリ「ソ」蒙側ハ日滿側ニ妥協的意思アルヲ確認セシモノ如ク漸次其態度強硬且尊大トナリ續イテ第七回會議（二十五日）ニ於テ日滿側ハ前回會議ニ依リテ約束ノ妥協案ノ提示ヲ求メタルモ「ソ」蒙側ハ日滿側前回提示ノ案ハ何等妥協案ト認メラレス「ソ」蒙側ニハ現在ノ所何等妥協案ナク日滿側ヨリ重ネテ妥協案提示アラハ之ヲ慎重ニ審議セント答フルノミニテ結局最終會議ヲ二十七日開催スルコトトシ閉會トセリ

「ソ」蒙側ノ斯カル強硬ナル態度ニモ拘ラス日滿代表部ハ其受ケタル訓令ニ鑑ミ會議ヲ纏メンカ爲讓歩案ヲ提出セサルヲ得サル立場ニ在リ反之「ソ」蒙側ハ日滿側ノ弱腰ヲ見

透シテ益々強硬トナリ最惡ノ場合ハ日滿側ノ最後案迄吐キ出サセ會議ヲ纏メス其儘引揚クルコトノ可能性スラ想像セラレ折角今迄五分五分ノ議論ト態勢ヲ保持シ來レル日滿代表部力最後ノ瞬間ニ非常ナル窮地ニ追ヒ込マルルカ如キ狀態トナリタリ茲ニ於テ二十五日夜日滿側代表部ハ至急新京、東京ニ「ノモンハン」地區ノ折半及「アルシヤン」河南方地區ニ關シテハ「ネメルゲン」河第二支流以北ヲ滿領トスル案ヲ強硬ニ突張り決裂ヲモ辭セサル態度ニテ臨ミ度シトノ請訓ヲ仰キタル處右方針ハ許可セラレタルニ依リ日滿代表部トシテハ內心強キ態度ヲ持シツツ政治的妥協ノ交渉ニ入り得ルコトトナリタルヲ以テ二十六、二十七日兩日三回ニ亘リ「ボゲダーノフ」ト私の會談ヲ行ヒ我方ハ「ノモンハン」折半「アルシヤン」河南方地區全有ヲ提議シ之ニ對シ「ソ」蒙側ハ相當誠意ヲ披瀝シテ之ニ應シ「ノモンハン」ノ一部（エリス・オボ）ト「ハルハ」河ヲ連ヌル線ヨリ東方ノ四角地帯ト「アルシヤン」河南方地區ニ付テハ「ネメルゲン」河第二支流ヲ境トスノ反對提議ヲ爲シ爲ニ原則的ニハ大體妥協成立スルニ至リ二十八日ノ本會議ニ於テ右妥協案ヲ正式ニ決定シ三十日迄ニ細目決定ヲ爲シ得ル運ヒ

トナリタリ

然ルニ「ソ」蒙側ハ二十八日午後三時半突如翌二十九日午後十二時迄回答ヲ求ムル最後通牒の文書ヲ以テ私的會談ノ妥協案ヲ撤回シ從來ノ主張ニ立返ルコトヲ通告シ來リタルヲ以テ日滿側モ直ニ文書ヲ以テ日滿側提示ノ妥協案ヲ撤回シ從來ノ主張ニ復歸スルコトヲ文書ヲ以テ通告シ茲ニ殆ト妥結セル交渉モ急轉直下從來ノ對立狀態トナリ其儘三十日ノ最終會議トナリ「双方主張ノ對立ニ鑑ミ混成委員會ハ全般的取極ヲナスコトヲ得サルヲ以テ」(委員會最終議定書)其業務ヲ終了セリ

因ニ右ニ關シ「タス」ハ「久シク存在シ且何人ニ依リテモ論議セラレサリシ國境線ノ再檢討ヲ混成委員會ニ於テ基礎付ケント目論ミタル日滿側提出ノ諸文獻ハ權威アル公的文獻タルノ性質ヲ缺ケルヲ以テ「ソ」蒙側代表ハ右諸文獻ヲ以テ國境線確定ノ根據ト認ムルコトヲ拒絕セリ日滿側ハ「ソ」蒙側ノ提出セル公的文獻ヲ認ムルコトヲ拒否シ双方共自己ノ意見ヲ固持セルニ依リ混成委員會ハ一致ノ決定ヲ採擇セスシテ解散セル」旨ノ「コメント」ヲ發表セリ



319

昭和15年2月1日

### 臨時滿蒙國境確定委員會解散に関する情報部

#### 長談話

臨時滿蒙國境確定委員會解散に関する情報部長談

(昭和十五年二月一日午後五時發表)

昨年九月十五日東郷大使とモロトフ外務人民委員との間に成立を見たノモンハン停戦申合は日滿軍及ソ蒙軍間に於ける軍事行動の停止等を規定すると共に「最近紛争ありたる地域の滿洲國及蒙古人民共和國間の國境」を明確ならしめる爲日、滿、ソ、蒙の代表者より成る國境確定委員會の設置を規定した即昨年のノモンハン及其の附近地域に於ける不祥事件が主として右地域に於ける滿蒙間國境の不明確であつた爲に起つたので右の國境を明確ならしめることに依り將來同じ様な不祥事件の發生を防かうと云ふ譯であつた右地域の國境確定委員會はチタ市に於て昨年十二月七日より二十五日迄哈爾賓市に於て本年一月六日(七カ)より三十日迄引續き開催せられ先づ本件國境の圖上確定に力めたのであるが國境線に關し合意を見るに至らなかつたので本國境確定

委員會は閉會することとなつた從つて本件滿蒙國境の確定は後日に譲ることとなつた次第である。

~~~~~

320 昭和15年4月18日 在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

国境確定問題に関するモロトフとの応酬振りについて

モスクワ 4月18日前発
本省 4月18日夜着

第四九五號

十七日午後四時半「モロトフ」ヲ往訪本使ヨリ捕虜問題カ⁽¹⁾解決ノ運ニ至ルコトニ言及シ懸案カ順次解決セラルルハ同慶ニ堪ヘスト述ヘタル後過般ノ約束ニ照ラシ本日ハ漁業條約問題ニ關スル蘇側ノ回答ヲ承ルコトト致度シト述ヘタルニ「モ」ハ捕虜問題ノ解決ハ自分トシテモ欣快ニ堪ヘス漁業問題ニ付テハ來週中蘇側ノ案ヲ提出シ得ヘキモ先ツ之ニ先立チ最近紛争^(前々)アリタル國境問題ヲ解決致度ク貴使ニ於テ異存ナクハ本日ハ同問題ニ觸レタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ數日前「ミコヤン」貿易人民委員ト會談ノ際同氏ハ日蘇

通商協定ノ成立ヲ貴我間ニ交渉中ノ政治約問題^(前々)ノ解決ニ懸ラシメラレタルヲ以テ自分ハ「ミコヤン」氏ニ對シ貴方ノ所謂政治約問題トハ何レノ意味ナリヤ判明セサルモ右カ日蘇間總テノ懸案ノ解決ヲ意味スルニ於テハ通商交渉成立ノ見透全ク困難トナルヘク漁業問題ノ如キ蘇側ヨリ回答セラ^(前々)ルル順序トナリ居ル次第ニシテ右ノ如キハ我方ノ甚タ迷惑トスル所ニシテ一問題ヲ他ノ問題ニ關聯セシムルコトニハ同意シ得サル旨答ヘ置キタル次第モアルカ漁業問題ニ付テハ來週回答セラルルニ於テハ差支無シ又自分ニ於テハ諸懸案ヲ成ルヘク速ニ解決シ度キ意嚮ナレハ紛争地^(前々)ノ國境劃定問題ニ付御希望ニ應シ本日論議スルコトニ勿論異存無シ只本問題ニ關シテハ一昨日「ロゾフスキー」氏ニ更ニ自分ノ意嚮ヲ述ヘ貴下ニ傳達方依頼シ置キタルヲ以テ御再考アリタルコトヲ期待スト述ヘタル處「モ」ハ「ミ」ハ對外關係ニ於テハ經濟、政治兩問題ト關聯アルヲ說キタルモノニシテ何カ政治問題ナルカニ付テハ茲ニ自分ヨリ蘇政府ノ見解ヲ明カニスヘシ之ハ紛争地國境劃定問題ニシテ之カ解決ハ他ノ通商、漁業、利權、國境委員會等諸問題ノ解決ヲ促進スヘシ本件ニ付テハ蘇側ハ日本側ニ於テモ善意ト讓歩ヲ

示スニ於テハ更ニ一ツノ讓歩ヲ爲スノ用意アルコトヲ言明シ得ヘキ處貴使ハ此ノ建前ヲ認メラルルヤト述ヘタリ依テ本使ハ一問題ノ解決ヲ他ノ問題ノ解決ノ前提トスルコトハ承服シ得サルモ總テノ問題ヲ急速解決スヘキ趣旨ヨリ本件ノ解決モ速カナランコトヲ希望ス但シ過般自分ノ提案セル處ハ互讓以上ノ讓歩ヲ示セルモノナレハ蘇側ニ於テモ全部的二應諾シ差支無キモノト思考スルモ其ノ地域ニ付日滿側ノ主張ヲ今少シク減少方希望セラルルカ如キ案アラハ之ニ「ミート」スル爲自分トシテモ全力ヲ盡シ得ヘシ

⁽³⁾ 兎ニ角蘇側ハ大體ニ於テ自分ノ案ニ同意セラレ差支ナキモノト思料スト述ヘタルニ「モ」ハ蘇側ハ本件妥結ノ趣旨ヨリ更ニ讓歩セントスルモノニシテ此ノ點日本政府モ貴使モ諒トセラレタク一方的二讓歩ノ證據ヲ示スモノニテハ互讓トナラサルヘシ日本政府ニ於テモ亦之ニ對應シテ讓歩セラルルコトヲ貴使ヨリ言明アリタシト述ヘタリ依テ本使ハ自分ニ與ヘラレタル訓命竝ニ我方ノ立場ハ既ニ述ヘタル通りナルカ日本政府モ本件急速解決ヲ希望シ居ルコト明白ナレハ其ノ趣旨ニテ貴方提案ヲ承ルコトトスヘシト述ヘタルニ「モ」ハ蘇側ハ日本軍ノ占據中ナル一〇三一高地ヲ滿側ニ

歸屬セシメ得ルモ他ノ點ニ付テハ從來ノ主張ヲ維持ス之一ニ本件妥結ノ精神ニ基ク新提案ナリト述ヘタルニ付本使ハ右提案ニ對スル本使意見ヲ開陳スル以前蘇側提案ノ趣旨ヲ明ニシタシトテ(一)一〇三一高地ヲ含ム地域ノ境界ヲ詳述セラレタシ(二)「エルス、オボ」ヨリ「ハルハ」河ニ至ル線以東ノ地モ日滿軍ノ占據スルモノナル處右一〇三一高地ト反シ之ヲ滿領ト認メ得サル理由如何ト質シタル處「モ」ハ停戰ノ線ハ「エルス、オボ」ヨリ「ハラト」ニ達スルモノニシテ四角地帯ニハ外蒙兵アリト抗辯セルニ依リ

⁽⁴⁾ 本使ハ昭和十四年六月關東軍測量部露版複製地圖ヲ提示シ停戰ノ線ハ「エルス、オボ」ト「ハルハ」河トヲ直接結フモノナリト主張押問答ヲシタルカ埒開カス双方取調フルコトトセルカ「モ」ハ其ノ滿側カ「アルシヤン」南方地域及四角地帯ノ二點ニ興味ヲ有スル理由ヲ差支無クハ何ヒ度シト言ヘルヲ以テ本使ハ法理的ニハ一九一九年ノ露支宣言附屬交換公文ニ依リ外蒙古ノ國境不明確ナリシコト明白ナルニ依リ大局の見地ヨリ考慮ヲ加ヘ確定スル要アリ又實際的二ハ本使ノ私見ナルモ滿側トシテハ主トシテ道路ヲ確保スルノ必要アリ尙又國境ノ確定ニ當リテハ成ルヘク明確ナル

線ニ依ルコト適當ナレハ「アルシヤン」地區ニ付テハ第二支流南方ヲ又四角地帯ニ付テハ「ホラト、オボ」ヨリ「エランス、オボ」ヲ通シ直線ニテ「ハルハ」河ニ達スル線ヲ主張ス而シテ自分ノ有スル資料ニ依レハ日滿側ハ四角地帯ヲ占據シ居ルノミナラス停戦線ハ前ニ述ヘタル通りナリト答ヘタルニ「モ」ハ一三年ノ宣言アリトテモ之ハ國境ヲ勝手ニ動かス法の根據ト爲シ得サルヘシ一九三四年迄ハ本地域ノ境界ニ付テハ何等ノ争ナカリシ次第ニテ道路ノ確保カ目的ナラハ蘇側ノ提案ハ實際的ナリシニアラスヤ

又茲ニ提示セラレタル地圖ニモ蘇側主張ノ如ク境界記入セラレ居ルニアラスヤト述ヘタルヲ以テ本使ハ此ノ地圖カ蘇聯製ノモノノ「コビー」ナルコトハ明瞭ニシテ貴下トノ話ノ便宜上之ヲ使用シ居ルニ過キスト種々説明ヲ加ヘ納得セシメタル上滿洲國成立後ニ至リ國境紛争ヲ發生スルニ至リタリトノ蘇側主張ハ露支宣言ニ依ル外蒙古境界ノ不明確ナリシコトノ事實ニ付何等反證トナリ得ス又道路ニ付テハ其ノ後本地圖ノ記載ト異リ居ルヤ否ヤ承知セサルモ道路及其ノ施設物ヲ確保スル爲ニハ或區域ノ「ヒンターランド」ヲ必要トス滿側ニ於テハ問題ノ地域ハ外蒙内ニ在ラスシテ自

國領域ト認メ居ル點ニ付蘇側ノ猛省ヲ促ササルヲ得ス結局自分トシテハ「アルウン」區域ニ於テハ第一支流ヲ國境トスルコトニ讓歩スル様東京ニ稟請シ極力之カ實現ニ努ムヘキニ付四角地帯トシテハ僅少ノ地域ニテモアリ蘇側ノ讓歩ヲ希望シテ熄マス斯クスレハ本件ヲ妥結ニ導キ得ヘシト述ヘタル處「モ」ハ道路カ滿領ニ含マレルコトヲ建前トシ此ノ趣旨ヲ以テ國境ヲ定ムルコトトシテハ如何斯クスレハ第一、第二ノ支流ニ觸ルルコト無ク問題ハ解決スヘク國境ハ大體「ハルハ」河ニ沿ヒ道路カ河ノ南岸ニ亘リ居ル地點ハ之ヲ滿領ニ讓リ得ヘシト述ヘ

尙四角地帯ニ道路ノ入り込メル個所ニ付テハ蘇側ノ主張スル「ハラト、オボ」ヨリ哈爾哈河ニ至ル國境線及右線カ哈爾哈河ト交ハル點ノ以西約五軒ノ河上ノ點ト「ハラト、オボ」トヲ結フ三角地帯ヲ(二語不明)シ之ヲ滿側ニ與フルコトトスヘシト言ヒ一〇三一高地ハ別問題ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ種々反駁ヲ加ヘタル處「モ」ハ前記地圖所載ノ「アルシヤン」河ヨリ「ハラト」山麓ヲ遶リ「ハンダガイ」ニ至ル街道カ國境ヲ定ムルコトニ主義上賛成ナリヤ尙場合ニ依リテハ政府ニ請訓セラレ數日中ニ再會シタク本問題ハ

來週十八日(當國日曜)ノ初二解決シ漁業問題ハ來週ノ末ニ
回答スルコトト致度シト述ヘタルニ依リ本使ハ先ツ一〇三
一高地ヲ含ム地域ノ境界如何ト突込ミタルニ「モ」ハ右ハ
道路確保ノ案ニ依リ代償トシテ蒙領ニ歸スヘシト答ヘタリ
依テ本使ハ其ノ食言ヲ詰リタルニ「モ」モ結局折レテ大體
「アルシヤン」河第一支流ノ少シク北ノ點ヨリ一二二〇高
地ヲ大體連絡スル線ヲ自ラ鉛筆ニテ記入シ之ヲ滿領トスヘ
キコトヲ認メタリ依テ本使ハ境界線ニ付テハ「エルソ、オ
ボ」東方四角地帯ハ停戰線ニ依レハ日滿軍ノ占據中ナルコ
トヲ篤ト考慮スル必要アリテ右地域ヲ滿洲國ニ歸屬セシム
ルコトニアラサレハ本件妥結ハ不可能ナリト信スルモ兎ニ
角本日御申出ノ次第ハ東京ニ報告スヘク何レ近日中再會ス
ヘシトテ四時半辭去セリ

滿ヘ轉電セリ

321

昭和15年4月18日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

ノモンハン地域の国境線に関シソ連側主張容
認の可否回示方請訓

第四九六號(至急、極秘)
往電第四九五號ニ關シ

モスクワ 4月18日前發
本省 4月18日夜着

本日本使「モロトフ」會談ニ於テ「モロトフ」ハ重ネテ
「ノモンハン」方面國境劃定カ日蘇間諸懸案解決ノ前提タ
ルコトヲ明言シタル次第ニシテ右問題ヲ一般國境確定ノ際
ニ讓ルコトハ全然不可能ナルノミナラス他方貴電第二二八
號及第二八一號ノ如ク「ボイル」湖以西地域ノ一部ヲ換地
トスル案ハ代換地區以外ノ係爭地區ハ總テ滿洲國領域ナリ
ト此ノ際蘇蒙側ヲシテ認メシメントスルモノナリトノ結論
ニ到達スルモノニシテ先方ノ到底承諾セサルハ明白ナリ從
テ本日ノ話合ノ筋ニ基キ純然タル滿洲國領域ヲ換地トスル
コトナク左ノ案ニテ解決ヲ圖ルコト得策ナルノミナラス他
ノ懸案解決促進上ニモ得策ト存セラル(同案ハ我方ノ必要
トスル處ハ充分ニ「カバ」シ居ル次第ニテ當地陸軍武官
トモ充分打合濟ナリ)蘇側ニ於テハ右案第一ニ付テハ強硬
ナル反對ヲ表示スヘキモ同案ニ依リ百方先方說得ニ努ムヘ
キニ付先ツ以テ左記御承認アリタク尙先方ニテモ歐洲情勢

ニ備ヘタキ心組ナルヘキカ我方ニテモ之ニ乗シ諸案件ノ解決ヲ促進スルコト得策ナルニ依リ迅速解決ヲ必要トスルニ依リ大至急右ニ關スル貴見御回電アリタシ

尙地點ハ總テ出發ハ十四年六月露版復製關東軍測量隊二十萬分ノ一外蒙貝爾湖附近傍圖『^(複カ)一五〇第三號右、第六

(一語脱)』ニ依ルニ付右ニ御承知アリタシ

一「ノモンハン」地區ニ付テハ「モロトフ」ハ「ハラトオボ」ト「ハルハ」河ヲ結フ國境線及同線カ「ハルハ」河ト交ル點ヨリ以西約五料ノ河上ノ地點ト「ハラトオボ」トヲ結フ三角地帶ヲ我方ニ讓ルコトヲ強ク主張スルモ我方トシテハ右地圖經線七〇緯線六〇ノ區劃間ヲ北ヨリ南ニ向ヒ「ハルハ」河ニ至ル道路ヲ以テ線ト爲スコトヲ主張ス

三「アルシヤン」地區ニ付テハ「モロトフ」ハ右地圖經線九〇緯線四〇ノ區劃内ノ「ネメルゲン」本流(一語脱)線ヨリ經線〇〇緯線四〇ノ區劃内ノ蘇側國境線上(一二〇〇高地ニ至ル直線ヲ以テ國境線ト爲スコトヲ提示セル次第アルカ我方ハ一應「ネメルゲン」河第一支流ヲ主張スルモ先方ニ於テ同意セサレハ「モロトフ」ノ主張ヲ容認ス

ルコト

322

昭和15年4月18日

在ソ連邦東郷大使より
有田外務大臣宛(電報)

ノモンハン國境確定共同コミュニケ作成の可

否につき請訓

モスクワ 4月18日後發
本省 4月19日前着

第四九九號(大至急、極秘)

往電第四九六號ニ關シ

一、次回會見ハ右往電ノ如キ事情モアルニ付出來得ル丈ケ速ニ行フコト望マシキ次第ナレハ御回訓ハ明十九日中遅クモ明後日午前中ニ接到スル様御取計願度シ又右御訓令發電見込折返シ御回電相成度シ

二、幸ニシテ「モロトフ」本使間ニ本件交渉ノ妥結ヲ見ル場合ハ先方ハ是ヲ書物トシテ後日ノ證據トスルヲ要求スヘシト豫想セラルル處本使ハ素ヨリ本件ニ付正式約定ヲ取極ムル地位ニアラサルモ客年十一月十九日附本使「モ」間ノ「ノモンハン」地域國境劃定委員會ノ組織竝ニ機能

昭和15年6月10日

滿へ轉電セリ

ニ關スル申合ノ如キ形式ニ依リ妥結ヲ見タル新國境線ヲ可能ナル範圍ニ於テ詳細ニ記載シ滿洲國政府又場合ニ依リテハ日本國政府ニ於テモ右國境線ニ異議無キ旨ヲ明カニスルト共ニ出來得ル丈ケ速ニ滿洲國及蒙古人民共和國政府間ノ正式條約ニ依リ是ヲ取極ムヘキ旨ヲ文書トシテ殘ス程度ノコトヲ承諾スルハ已ムヲ得サルヘシト存セラ

ルル處右ニ關スル御意嚮併セテ御回示ヲ得タシ

~~~~~

## ノモンハン國境確定共同コミュニケに関する

### 情報部長談話

付記 欧亜局第一課作成「昭和十五年度執務報告」

より抜粋

國境確定に関するモスクワでの交渉について

ノモンハン國境確定共同コミュニケ

に関する情報部長談

(昭和十五年六月十日)

## (付記)

莫斯科交渉

客年九月ノモンハン停戦後該地域に於ける國境確定に關シチタ及ハルビンに於て日滿蘇蒙四國代表一堂に會して審議したか本年一月末ハルビン會議も彼我の主張一致せず一應其の業務を終止せしめたか其の後モスコに於て東郷大使竝にモロトフ外務人民委員間に引續き折衝を行つた結果今般相互の互讓妥協に依り意見の一致を見半年に亘り日ソ間の懸案であつたノモンハン國境確定問題も茲に圓滿に解決を見た次第である。

哈爾濱會議ハ上記ノ如キ經緯ニ依リ閉會セル處爾來我方トシテハ同會議終幕ニ際シ「ソ」蒙側ノ執リタル強壓の態度ニ鑑ミ我方ヨリ本件交渉ヲ切出シ解決ヲ焦リ居ルカ如キ印象ヲ與フルコトヲ避クル方針ヲ以テ進ミ來リタル處「ソ」側ハ本件解決ヲ通商交渉及漁業條約交渉ニ關聯セシムルノ態度ヲ示シ交渉開始ノ端緒ヲ開キ來レルヲ以テ我方モ之ニ應シ日「ソ」國交ノ全般的調整ノ立場ヨリ大局の見地ニ立チテ本件ノ處理ニ當リ遂ニ六月九日ニ至リ東郷大使、「モ

ロトフ」人民委員間ニ於テ紛争地域國境確定ニ關スル申合  
ノ成立ヲ見タリ

交渉經緯大略左ノ通ナリ

(一) 三月五日「ロゾフスキー」ハ東郷大使ノ來訪ヲ求メ  
「ハルハ」河左岸「ハンダガヤ」街道附近ノ所謂二、三  
秆ノ代地案<sup>(昭和十四年度歐亞局  
第一課執務報告參照)</sup>ヲ提議セルヲ以テ大使ハ斯  
カル案ニ依リテ妥結出來サルコトハ既ニ「ノモンハン」  
停戰協定交渉ニ際シ言明セル處ニシテ一月二十六日夜亀  
山、久保田及「ボグダーノフ」第二回私的會談ニ於ケル  
「ボグダーノフ」委員ノ妥協案ニ鑑ルモ「ソ」側代表者  
カ一應右妥協案ナラハ妥結シ得ヘシト思考シ居リタルコ  
ト明カナリ而シテ右妥協案ニ依リテ蒙側ハ係争地ノ五分  
ノ四ヲ獲得スヘキニ付之ニ依リ妥結方蒙古政府ト折衝サ  
レ度キ旨希望セルニ「ロゾフスキー」ハ「ソ」側委員ノ  
作成セル記錄ニ依レハ右妥協案ナルモノハ日滿側ヨリ提  
議セルモノニシテ蒙側カ滿洲國ニ斯カル廣大ナル土地ヲ  
割キ與フル理由ナク唯日滿側ノ理由アル提議ニ應スル意  
味ニ於テ二、三秆ノ代地案ヲ提議セル次第ナルニ依リ之  
ニテ妥結方再ヒ主張セルヲ以テ本使ハ本件問題ヲ調整ス

ルニハ大局の見地ヨリ論スルノ外ナク急速解決ヲ希望ス  
ル趣旨ヨリ滿側ニ強キ反對アルニ拘ラス係争地ノ僅カ五  
分ノ一ノミヲ滿側ニ歸屬セシムル案ヲ提議セル次第ニテ  
他ノ解決案存セスト主張シ「ソ」側委員カ上記妥結案ニ  
付或程度迄「コミット」シ居リタルコトヲ思ハシムル筋  
アル旨ヲ重ネテ強調シ大局の見地ヨリ「ソ」側ニ於テ再  
考アリ度キ旨要望セリ

(二) 三月十一日東郷大使ハ「ロゾフスキー」ニ對シ「ソ」  
側回答ヲ促シタル處「ロゾフスキー」ハ依然トシテ二、  
三秆ノ代地案ヲ固執シ我方カ之ニ同意セサル以上本件ノ  
論議ヲ打切ルノ外ナシト述ヘタルヲ以テ大使ハ「ソ」側  
カ我方ノ妥當ナル妥協案ヲ受諾セサルモノナルヲ以テ本  
問題ノ打切ニ異論ナシ唯日滿軍ノ撤退ヲ必要トスル如キ  
「ソ」側主張ハ到底我方ノ受諾シ得ル處ニ非スト述ヘタ  
ルカ「ロゾフスキー」ハ自說ヲ更ニ繰返セルノミナリシ  
ヲ以テ大使ハ斯クテハ本件ノ妥協ハ不可能ナリト述ヘ辭  
去セリ

(三) 三月十七日「モロトフ」ハ東郷大使ニ對シ紛争地域ノ  
國境確定終了セハ他ノ總テノ問題ノ解決容易トナルヘキ

モ然ラサレハ解決困難ナリト述ヘタルヲ以テ大使ハ我方  
妥協案ノ極メテ公正ナル所以ヲ力説シ日滿軍ノ撤退ヲ必  
要トスル如キ解決考ヘラレス旁々「ソ」側代表モ哈爾濱  
ニ於テ少クトモ或期間中ハ所謂妥協案ノ氣持ヲ有シタル  
コト確實ナルヲ以テ右妥協案ヲ離レテ本件ヲ解決スルコ  
ト不可能ナリト反駁セルニ「モロトフ」ハ本件ニ付日本  
側カ必要以上ニ頑張り他ノ諸問題ノ解決ヲ困難ナラシム  
ルカ如キコト無キ様希望スト言ヘルヲ以テ大使ハ我方ハ  
決シテ斯カル態度ヲ執ルモノニ非ス右妥協案ハ極メテ妥  
當且穩健ナルモノナル所以ヲ繰返シ「ソ」側ノ再考ヲ希  
望シ置ケリ

(四) 上記ノ如ク「ソ」側カ本件ヲ爾余諸案件ノ解決ト關聯  
セシメ來リタルニ鑑ミ三月二十六日政府ハ大使ニ對シ日  
「ソ」双方カ「ノモンハン」停戰協定ヲ遵守スル限り紛  
爭地域ニ於テ不祥事勃發ノ惧ナキヲ以テ當分本件ニ關シ  
拘泥スルコトナク全般的國交調整ヲ考慮ニ入レッツ本件  
解決ヲ計ルヘキ旨訓令スルト共二更ニ「ソ」側カ飽ク迄  
本件解決ヲ固執スルニ於テハ(第一案)「ノモンハン」地  
區ニ付テハ「ホルステン」河ヲ境トシ「アルシヤン」河

南方地區ニ付テハ「ネメルゲン」第一支流以北ヲ滿側ト  
ナスコト(第二案)「ノモンハン」地區ニ付テハ哈爾濱ニ  
於ケル私的會談ノ際ノ妥協案ノ線ヲ以テ境トナスコト(「ア  
ルシヤン」河南方地區ニ付テハ同前)(第三案)第二案ノ  
線ニ依ル外更ニ「ボイル」湖以西ニ於テ相當地域ヲ蒙側  
ニ與フルコトノ趣旨ニ依リ「ソ」側ト交渉スヘキ旨訓令  
セリ(尙「ハルハ」廟三角洲問題ニハ殊更觸レサルコト  
トシ又「ボイル」湖以西ノ地域トシテハ「モノンタラ」  
地方中ノ一部或ハ「バイントウメン」東方地區ヲ候補ト  
セリ)

(五) 他方本件交渉ト時ヲ同シクシテ行ハレ居タル日「ソ」  
通商交渉モ双方意見一致セサル爲行惱ミトナリ居リタル  
カ四月十四日「ミコヤン」外國貿易人民委員ハ東郷大使  
ニ對シ右通商交渉再開ニハ先ツ日「ソ」間ノ政治的諸問  
題ヲ解決スル必要アリト述ヘタルヲ以テ大使ハ日「ソ」  
間ニハ幾多ノ懸案アリテ之等ト通商問題ヲ關聯セシムル  
コトハ納得シ得ス却テ本通商交渉ハ之ニ依リテ日「ソ」  
兩國間ノ全般的國交調整ニ資スル目的ヲ以テ開始セルモ  
ノナル所以ヲ強調シ置ケリ

(六)

翌四月十五日「ノモンハン」事件捕虜交換問題ノ解決ニ際シ東郷大使ハ「ロゾフスキー」ニ對シ更ニ紛争地域ノ國境確定問題モ解決セハ全般的國交調整ニ寄與スルコト大ナルヘキ處本件ニ關スル我方提案ハ御承知ノ通り極メテ公正ナルモノナレハ右ニ依リ妥結方希望スト述ヘタルニ「ロゾフスキー」ハ「ソ」側主張ハ日本側主張ヨリ更ニ公正ナルモノト思考スト答ヘタルヲ以テ大使ハ我方提案ノ「ライン」ニ沿ヒテ解決スルコト唯一ノ方法ナル旨繰返シ強調セリ

(七)

四月十七日漁業條約問題ニ關スル「ソ」側回答督促ノ爲往訪セル東郷大使ニ對シ「モロトフ」ハ右回答ハ紛争地域ノ國境確定ヲ條件トスヘシト述ヘタルニ依リ大使ハ本件ニ關スル自分ノ意向ハ既ニ「ロゾフスキー」氏ヨリ御承知ノ上「ソ」側ニ於テ再考アリタルモノト期待スト述ヘタル處「モロトフ」ハ先日「ミコヤン」カオ話シタル政治的問題トハ本件國境確定問題ナルコト及本件ニ付テ日本側カ善意ト讓歩ヲ示スニ於テハ「ソ」側モ亦一ノ讓歩ヲ爲ス用意アルコトヲ言明セルヲ以テ大使ハ一問題ノ解決ヲ他ノ問題解決ノ前提トナスコトハ承服シ得サル

モ總テノ問題ヲ急速解決スヘキ趣旨ヨリ本件解決ノ速カナルコトヲ希望ス而シテ過般提出ノ妥協案ハ日本側ニ於テ互讓以上ノ讓歩ヲ示セルモノナレハ「ソ」側ニ於テ全部的ニ應諾セラルヘキモノト思考スト述ヘタル處「モロトフ」ハ「ソ」側ハ本件妥結ノ趣旨ヨリ更ニ讓歩セントスルモノナルヲ以テ日本政府モ亦之ニ應シ讓歩セラルコトヲ言明アリ度シト述ヘタルニ依リ大使ハ日本政府モ本件急速解決ヲ希望シ居ルコト明白ナレハ其趣旨ニテ「ソ」側提案ヲ承リ度シト答ヘタル處「モロトフ」ハ新提案ナリトテ日本軍占據中ナル一〇三一高地ヲ滿側ニ歸屬セシムルモ他ノ點ニ付テハ從來ノ主張ヲ維持スルノ案ヲ提出セルヲ以テ東郷大使ヨリ(イ)一〇三一高地ヲ含ム地域ノ範圍竝(ロ)「エリス・オボ」ヨリ「ハルハ」河ニ至ル線以東ノ四角地帶モ日滿軍占據中ナルニ拘ラス之ヲ滿側ニ歸屬セシメ得サル理由ヲ質問シ種々押問答ノ結果大體(イ)ニ關シテハ「ネメルゲン」河第一支流ノ少シク北ノ點ヨリ一二〇〇高地ヲ連絡スル線以北ヲ滿領ト認ムルモノナルコト明カトナリタルモ(ロ)ニ關シテ「モロトフ」ハ停戦ノ線ハ「エリス・オボ」ヨリ「ハラト・オボ」ニ至ル

モノニシテ上記四角地帯ニハ外蒙兵在リト抗辯セルヲ以テ大使ハ之ヲ反駁シ右地帯ハ僅少ナルモノナレハ「ソ」側ノ讓歩ヲ希望スル旨強調セルニ「モロトフ」ハ「ハラト・オボ」ヨリ「ハルハ」河ニ至ル國境線及右線カ「ハルハ」河ト交ハル點ノ西方約五軒ノ河上ノ點ト「ハラト・オボ」ヲ結フ線ニ依リ圍マルル三角地帯ヲ滿側ニ與フト述ヘタルヲ以テ大使ハ「エリス・オボ」東方四角地帯ハ停戰ノ線ニ依レハ日滿軍カ占據中ナルヲ以テ右地域ヲ滿側ニ歸屬セシムルニ非レハ本件妥結困難ナルヘシト述ヘタリ

(ハ) 右會談ノ結果ニ基キ東郷大使ハ(イ)「ノモンハン」地區ニ付テハ「ソ」聯製二十萬分一外蒙「ボイル」湖附近傍圖ニ於ケル經線七〇緯線六〇ノ區劃間ヲ北ヨリ南ニ向ヒ「ハルハ」河ニ至ル道路ヲ以テ境トシ右以東ヲ滿領トシ(ロ)「アルシヤン」河南方地區ニ付テハ「ネメルゲン」第一支流ヲ主張スルモ已ムヲ得サレハ「モロトフ」ノ主張ヲ容認スルコトヲ以テ交渉シ度キ旨請訓セルニ對シ四月二十日政府ハ(イ)ニ付テハ「エリス・オボ」東方四角地帯ヲ東經百十九度十五分ノ線ヲ以テ縱斷シ右以東ヲ滿領ト

ナシ度キモ已ムヲ得サレハ請訓通りニテモ差支ヘナク(ロ)ニ付テハ請訓通りニテ可ナル旨訓令セリ

(九) 四月二十一日東郷大使ハ「モロトフ」ニ對シ「ソ」側ノ諸懸案解決促進ヲ條件トシテ帝國政府ハ更ニ讓歩スルモノナリトテ(イ)「ノモンハン」地區ニ付テハ「エリス・オボ」東方四角地帯ヲ東經百十九度十五分ノ線ヲ以テ縱斷シ右以東ヲ滿領トナスコト(ロ)「アルシヤン」河南方地區ニ付テハ「ネメルゲン」河第一支流ヲ境界ト爲スコトヲ提議セル處「モロトフ」ハ(ロ)ニ付テハ直ニ同意シタルモ(イ)ニ任テハ「モロトフ」主張ノ三角地帯ノ外ナシト言ヒ切リタルヲ以テ大使ハ種々之ニ對シ反駁ヲ加ヘタルモ「モロトフ」ハ右ハ「ソ」聯政府竝外蒙古政府ト篤ト打合せタル結果ナルニ依リ變更ノ餘地ナシト應セス之ニ對シ大使ハ本件妥結ノ爲メニハ我方提案ニ依ルノ外ナキコトヲ力説シ「ソ」側ノ再考ヲ促シ置ケリ

(十) 四月二十七日政府ハ東郷大使ニ對シ「ノモンハン」地區ニ付テ我方ノ四角地帯ノ主張貫徹ニ努メラレ度キモ已ムヲ得サレハ「モロトフ」提示ノ三角地帯ニテ妥結シ然ルヘキ旨訓令セリ

(一)

四月二十八日東郷大使ヨリ本件ニ關スル「ソ」側再考ノ結果ヲ質シタルニ「モロトフ」ハ「ソ」側ハ既ニ再度讓歩シタルヲ以テ前回ノ回答ヲ最後トスト答ヘタルニ依リ大使ハ我方トシテハ「ソ」側主張ヲ納得シ得サルモ本件急速解決ノ見地ヨリ更ニ讓歩シ「ノモンハン」地區ニ付テ「ハラト・オボ」ヨリ「エリス・オボ」ニ至ル直線上「ハラト・オボ」ヨリ西方五軒ノ點ヨリ南下シ「ハルハ」河ニ至ル線以東ヲ滿領トナスコトヲ提議スルニ依リ之ニ同意アリ度キ旨述ヘタルモ「モロトフ」ハ之ニ應セス依テ大使ハ「モロトフ」提示ノ三角地帶ト同一面積(二十七平方軒ナル趣)ヲ長方形ニ變ユルコトヲ提議セルモ「モロトフ」ハ依然原案ヲ固執セル上之ニテ妥結セハ議定書ヲ作成シ「ボイル」湖以東ノ國境線ヲ地圖ニ依リ明カニシ度シト述ヘタルヲ以テ大使ハ從來交渉シ來レルハ「ノモンハン」地區及「アルシヤン」河南方地區ノミニシテ「ボイル」湖以東ノ如キ廣汎ナル範圍ノ取極ヲナシ得サル旨反駁セル處「モロトフ」ハ「ハルハ」廟地區ニ於テモ兵力ノ衝突アリタルヲ右地區ニ付テモ國境ヲ明白ナラシムル要アリト強調セルニ依リ大使ハ之ヲ反駁シ

本問題ハ一般國境確定委員會ノ取扱フヘキモノナル旨主張セルモ「モロトフ」ハ之ヲ肯セス

(二)

五月四日政府ハ大局の見地ヨリ東郷大使ニ對シ(第一案)「ボイル」湖東方三角洲問題ヲ切離シ交渉妥結ニ努ム(此際「ノモンハン」地區ニ付テハ「モロトフ」提示ノ三角地帶ヲ容認ス)、(第二案)「ノモンハン」地區ニ付テハ東郷大使案ニ依ル四角地帶(ハ参照)トシ「ボイル」湖東方三角洲ノ南半ヲ外蒙ニ歸屬セシム但大使ノ見込ニ依リ最初ヨリ第二案ヲ提議シテ差支ヘナキ旨訓令セリ(尙「ボイル」湖東方三角洲ト「ノモンハン」地區トノ間ニ存スル部分ハ「ハルハ」河ヲ以テ境トナスコト我方意見ナリ)

(三)

五月二十三日東郷大使ハ「モロトフ」ニ對シ我方ハ「ハルハ」廟地區(ボイル)湖東方三角洲ニ關シ他ノ地帶ト異ル事情アリト認ムルモ諸懸案急速解決ノ見地ヨリ右地區ニ付テモ一括審議ニ應スル處同地帶ハ昭和十四年五月突如外蒙軍カ占領セシモノニシテ滿側ハ文獻上ヨリモ其自國領ナルコトヲ確信シ居ルモ論議ニ時日ヲ費スコトヲ避クル爲右地區切半ニ應スル用意アル處右讓歩ニ鑑

ミ「ノモンハン」地區ニ付テハ東經百十九度十五分ノ線ヲ主張スル旨述ヘタルニ「モロトフ」ハ(イ)「ハルハ」廟カ元來外蒙領ナルコト(ロ)「ソ」側主張ノ國境線ハ「ボイル」湖東方三角洲ノ北邊ニ存スル「チャーリーズ」河ヨリ更ニ北ヲ通ルモノナルコトヲ主張セルヲ以テ大使ハ之ヲ論駁セルモ「モロトフ」ハ讓歩ノ色ヲ示サス

(寅) 右會談ニ於ケル印象ニ依レハ「モロトフ」カ本件係爭地域全部カ外蒙領ナルコトヲ強ク確信シ居ル模様ナル上歐洲ニ於ケル情勢ヲ考慮シ日「ソ」國交調整ノ進捗ヲ計ル要アリトノ見地ヨリ東郷大使ハ結局ニ於テ「アルシヤン」河南方地區ニ付テハ「ネメルゲン」第一支流以北及「ノモンハン」地區ハ「モロトフ」提示ノ三角地帶ヲ滿領トシ「ボイル」湖東方三角洲ハ之ヲ拋棄シ交渉妥結ノ外ナキヲ以テ右ニ依リ交渉シ度キ旨請訓セルニ依リ五月二十九日政府ハ(第一案)「ノモンハン」地區ニ付テハ從來主張ノ四角地帶ヲ滿領トシ「ボイル」湖東方三角洲ヲ放棄ス(第二案)請訓ノ通りニテ差支ヘナキ旨訓令セリ(因ニ何レノ場合ニモ「ボイル」湖東方三角洲トハ「チャーリーズ」河及「ハルハ」河本流ニ圍繞セラルル三角

地帶ヲ指スモノナリ)

(丑) 六月一日東郷大使ハ前會談ニ於ケル我方提案ニ依リ妥結方線返シタルモ「モロトフ」ハ之ニ應セス依テ大使ハ(イ)「ノモンハン」地區ニ付テハ東經百十九度十五分以東ヲ滿領トナスコト(ロ)「ボイル」湖東方三角洲但「チャーリーズ」河以北ハ含マレス)ハ外蒙領トナスコトニ同意スル旨述ヘタル處「モロトフ」ハ國境線カ「チャーリーズ」河以北ヲ通ルコトヲ主張シ讓ラス茲ニ於テ大使ハ最後案トシテ「ボイル」湖東方三角洲ニ付テハ國境線ヲ「チャーリーズ」河ニ限ルコトヲ條件トシテ「アルシヤン」河南方地區及「ノモンハン」地區ニ付テハ「モロトフ」ノ主張ヲ以テ満足スル旨述ヘタルニ「モロトフ」ハ研究ヲ約セリ

(子) 六月三日「モロトフ」ハ前回ノ我方主張ニ對スル「ソ」側最後案トシテ「ボイル」湖東方地帶ニ於ケル讓歩トシテ「チャーリーズ」河ト「ハルハ」河本流ノ分流點ノ東北約四軒ノ突端ヨリ「ハルハ」河ヲ西西北ニ眞直ニ延長シタル線ヲ引キ其東方二位スル地帶ヲ滿領トナスヘキ旨提議シ來レリ依テ東郷大使ハ右「ソ」側讓歩ハ僅少ナル

モ我方トシテハ難キヲ忍ビテ之ニ應シ速ニ妥結スルコト大局上可ナリト認ムル旨意見上申シ來リ日滿側モ之ニ同意スル外ナシト認メタリ

(七) 六月七日東郷大使ハ「モロトフ」ヲ往訪前回ノ「ソ」側提案ニ對シ日滿兩國政府ニ於テハ相當不滿アリタルモ大局の見地ヨリ漸ク右ニ妥結方同意シ來レル旨回答シ茲ニ本件交渉妥結ヲ見ルニ至リ同九日右兩者間ニ於テ本件申合及國境線ヲ記入セル地圖ニ「イニシアル」ヲ了セリ（昭和十五年六月九日東郷、「モロトフ」申合）

最近「ソヴィエト」聯邦外務人民委員「モロトフ」氏ト日本大使東郷氏トノ間ニ行ハレタル交渉ノ結果右兩氏ハ客年紛争アリタル滿蒙國境地方ニ於ケル國境線ニ關シ左ノ通合意ニ到達シタルニ付右國境線ヲ別添地圖上ニ記入セリ

左記申合ノ成立ニ當リ「ソヴィエト」聯邦外務人民委員「モロトフ」氏ハ蒙古人民共和國政府ニ於テ日本大使東郷氏ハ滿洲國政府ニ於テ夫々本申合ニ同意ナル旨ヲ聲明セリ

(一)

前記地方ニ於ケル蒙古人民共和國及滿洲國間國境線ハ本申合附屬ノ千九百三十五年赤軍參謀本部發行二十萬分ノ一地圖ニ從ヒ進ムモノトス即チ次ノ如シ

國境線ハ「ハルハ」廟西南約四・五軒ノ「ボイル」湖北岸ヨリ直線ヲ成シテ「ムホル・オボ」ニ至ル

國境線ハ同地ヨリ「ムホル・オボ」東方ノ「オボ」ノ處ニテ「ウルシン」、「シヤリリジン」兩河ヲ横切り東北ニ向ヒ「ブフィン・トロゴイ」（古墳）ヲ經テ「オヴディク」廟ノ西南約八百米ノ地點ニ至ル

國境線ハ同地點ヨリ直線ヲ成シテ東南ニ向ヒ「ツアガン・ホシユ」山西北ノ「ハルハ」河北部灣曲ノ西側屈曲部ニ至ル國境線ハ同地點ヨリ「ハルハ」河ヲ遡リ「シリン・ホドク」西南約八・五軒ノ「オボ」ニ至ル

國境線ハ同地點ヨリ更ニ東ニ向ヒ「シリン・ホドク」ノ西南約七軒ノ地點ニ在ル「オボ」ニ至ル

國境線ハ右「オボ」ヨリ直線ヲ成シテ東南東ニ向ヒ「シリン・ホドク」ノ南約二・五軒ノ地點ニ至ル

國境線ハ同地點ヨリ直線ヲ成シテ東南ニ向ヒ「ノモンハン・ブルド・オボ」ニ至ル

國境線ハ「ノモンハン・ブルド・オボ」ヨリ直線ヲ成シテ東南ニ進ミ「フラト・ウライン・オボ」ニ至リ國境線ハ同地點ヨリ直線ヲ成シテ南南東ニ進ミ「エリス・ウルイン・オボ」ニ至ル國境線ハ「エリス・ウルイン・オボ」ヨリ直線ヲ成シテ東南ニ向ヒ「ハラト・ウライン・オボ」ニ至ル

國境線ハ「ハラト・ウライン・オボ」ヨリ西南ニ向ヒ「ハルハ・オボ」ノ東南約八・五料「シレン・オボ」ノ北北西六料ニ在ル道路(複數)ノ西方分歧點ヲ横切り「ハルハ」河ニ至ル而シテ千九百三十五年關東軍司令部發行ノ十萬分ノ一ノ日本地圖ニ示サレタル所謂八七二高地ハ滿洲國側ニ殘ル

國境線ハ同地點ヨリ「ハルハ」河ヲ遡リ「ネメルゲン」河口ニ至ル國境線ハ「ネメルゲン」河口ヨリ同河ヲ遡リ同河口ヨリ約八料ノ地點ニ在ル同河支流ノ合流點ニ至ル國境線ハ同地點ヨリ前記支流ヲ遡リ又ハ支流枯渴セルトキハ其谿谷ニ沿ヒテ遡リ「ロツシン」河口ノ西南約十一料ノ點ニ於テ本申合附屬地圖ニ記載セラレタル國境線トノ接合點ニ至ル

國境線ハ同地點ヨリ南及東南ニ向ヒ附屬地圖記載ノ通標高一〇七五高地ニ至リ更ニ進ムモノトス

(註) 河川ヲ以テ國境線ト成ス場合ニハ當該河川ノ中央ヲ以テ國境ト定ム

## (二)

蒙古人民共和國政府ノ代表者及滿洲國政府ノ代表者ハ成ルヘク速ニ詳細ナル地圖ニ前記國境線ヲ明記シ且現地ニ於テ右國境線ヲ明瞭ニ表示スル爲適當ナル措置ヲ執ルヘシ

前項ノ事業ハ其後直ニ締結セラルヘキ蒙古人民共和國政府及滿洲國政府間ノ協定ニ依リ確認セラルヘシ  
露西亞語文貳通及日本語文貳通計四通ヲ作成ス

(大) 尙從來ノ交渉經緯竝七田參事官ト「ツアラブキン」極東部長間ニ行ハレタル「レダクシヨ」打合セノ際ノ話合ヨリ現地作業實施ニ際シ注意スヘキ事項左ノ通

(イ) 「ノモンハン」地區三角地帶(八七二高地)(ニ關シ

六月七日「モロトフ」トノ會見ニ際シ大使ヨリ提示セル試案ニハ「國境線ハ「ハラト・ウライン・オボ」ヨリ西南ニ向ヒ「シレン・オボ」ノ北ノ「ハルハ」河無

名中洲ノ最西端ニ達ス而シテ所謂八七二高地ハ滿洲國側ニ殘ル」ト記述シ右線カ「直線」ニ非サル旨ヲ加味シタルカ同日ノ會談ニ於テ大使ヨリ八七二高地ハ「モロトフ」提示ノ三角地帶ニ含マルヘキコトニ付念ヲ押シタルニ「モロトフ」ハ右ニ付テハ話合ヒタル記憶ナシト呆ケタルヲ以テ大使ヨリ四月末ノ會談ニ於ケル「モロトフ」ノ確言ニ付種々説明ヲ加ヘ「モロトフ」所持ノ地圖ニモ○印ノ記載サレアルヲ指摘セル處「モロトフ」モ漸ク納得セル經緯アリシニ鑑ミ翌朝大使館ヨリ改メテ外務部ニ送付セル我方書キ物案ニハ「國境線ハ「ハラト・ウライン・オボ」ヨリ西南ニ向ヒ八七二高地西方ノ谷心ヲ經テ「シレン・オボ」ノ北ノ「ハルハ」河無名中洲ノ最西端ニ達ス即八七二高地ハ滿洲國側ニ屬ス」ト修正シ置キタリ

然ルニ八日午後「ツアラプキン」ヨリ提出アリタル「ソ」側原案ニハ「國境線ハ「ハラト・ウライン・オボ」ヨリ直線ヲ成シテ西南ニ向ヒ「ハルハ・オボ」ノ北々西六「キロメートル」ニ在ル道路(複數)ノ西方分歧點ヲ横切り「ハルハ」河ニ至ル而シテ千九百三十五年關

東軍司令部發行ノ十萬分ノ一日本地圖ニ示サレタル所謂八七二高地ハ滿洲國側ニ殘ル」ト記載アリ

依テ八七二高地カ事實上右劃線ノ外側ニ出ルカ如キ場合ノ取扱ヒヲ一層明確ニシ置ク要アリト認メ我方トシテハ前記我方案ノ記載振リヲ極力主張セル結果「八七二高地ノ西方谷心ヲ經テ」ノ挿入ヲ應諾セシメ得サリシモ漸ク「直線ヲ成シテ」ノ字句ヲ削除シ我方十萬分ノ一地圖記載ノ八七二高地カ三角地帶内ニ入ル様幾分西方ニ弧ヲ描ケル曲線ヲ引クコトニ應セシメタリ

(ロ) 「ハルハ」河中洲及河川國境ニ關シ

河川國境ニ付テハ我方ハ凡テ本流ノ中央ヲ以テ國境線ト爲スコトトシ書キ物案中ニ「河川ヲ以テ國境線ト爲ス場合ニハ當該河川ノ本流ノ中央ヲ以テ國境線ト定ム」トノ註ヲ附シタルニ對シ「ソ」側原案ハ或ル個所ニ於テハ「ハルハ」河ノ中央ヲ經テ」トシ他ノ個所ニ於テハ或ハ同河ノ南流或ハ東北流或ハ北流ト明記シアリ右ニ付「ツアラプキン」ハ「ソ」側トシテハ「ノモンハン」地區三角地帶ニ含マルヘキ河洲ハ之ヲ滿洲國側ニ歸屬セシムルコトニ異存ナキモ其上流「ネメルゲン」河

合流點ニ至ル途中ノ二個ノ中洲ハ何レモ蒙古側ニ歸屬セシメントスルモノナリトノ説明ヲ加ヘ強硬ニ之ヲ主張セルモ我方亦種々之ヲ反駁シ漸ク前記註ノ挿入ヲ認メシメタル結果二個ノ中洲ノ歸屬ハ現地ニ於テ本流ヲ決定スルコトニ依リ自ラ定マルヘキコトトナリ從テ右中洲ノ個所ノミハ地圖上ニモ劃線ヲ施ササルコトトナレリ

(ハ) 「ネメルゲン」河第一支流ニ關シ

本支流ハ「ソ」聯製二十萬分ノ一地圖ニハ記載ナク我方十萬分ノ一地圖ニ依リ適當ニ記入セル次第ナリ「ソ」側原案ニモ點線ヲ以テ表示スヘキ旨記載シ居ルハ本支流ヲ通スル國境線ハ他ノ部分ト異リ大體ノ處ヲ表示スルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ結局他ノ部分ト同様ニ劃線記入セルモ右ハ地圖上大體本支流ノ谷間ト覺シキ低地ヲ結ビタルニ過キス現地作業ノ結果多少ノ差異ヲ生スルハ之ヲ豫想スルモノナリ

(ニ) 「ネメルゲン」地區東部國境ニ關シ

「ネメルゲン」第一支流ト東部國境線トノ接合點以南ノ國境線ニ付テハ我方原案ニハ「ソユルジ」山ニ至

ル」旨記載セルカ「ソ」側原案ニハ「一〇七五高地ニ至ル」トアリ恰モ滿蒙國境カ右高地ニ至リテ終ルカ如キ印象ヲ與ヘ面白カラストテ我方原案通りノ記載ヲ固執シ結局「一〇七五高地ニ至リ更ニ進ムモノトス」トノ折衷案ヲ以テ妥協セリ尤モ「ソ」聯製二十萬分ノ一地圖ハ右一〇七五高地ノ南方僅カノ個所ニテ終リ居ル關係上同地圖ニ「ソユルジ」山迄ノ線ヲ劃スルコトハ事實上不可能ナリシ次第ナリ

上記六月九日ノ東郷「モロトフ」申合ヲ實施スベキ國境確定委員會ニ關シ同二十五日以降七田參事官「ツアラプキン」極東部長間ニ於テ交渉ヲ行ヒタル處結局「ソ」側原案ニ對シ我方ニ於テ修正ヲ加ヘ七月十八日東郷大使「ロゾフスキ」間ニ於テ「六月九日ノ申合ニ基ク現地國境確定委員會ノ構成及職務ニ關」スル取極ニ「イニシアル」ヲ了セリ右交渉ニ際シ問題トナリタル要點左ノ通

(一) 本委員會ノ業務範圍ニ關シ右事業カ「一〇七五高地」

ニ至ルモノナルコトヲ明白ナラシメ置ク要アリタルヲ以テ「ソ」側意向ヲ確メタル處先方ハ六月九日申合ニ掲ゲラルル地域ハ「ネメルゲン」河支流カ國境ト接合スル點

(即チ「ロツシン」河口西南約十一軒)ヲ以テ終ルモノニ  
テ本委員會ノ事業モ右以上ニ及ハスト了解シ居リタリト  
主張セルヲ以テ更ニ我方見解ヲ説明セル處結局先方モ  
「二〇七五高地」迄ヲ本委員會事業ノ對象トナスコトニ  
同意セリ(イ)(ニ)參照)

(二) 本委員會ノ構成及職務ニ關スル「ソ」側原案ニ依レハ  
現地作業終了後委員會ハ二萬五千分ノ一國境地圖ヲ作成  
スルコトニナリ居ル處斯卡ル詳細ナル地圖ヲ作成スルコ  
トハ作業ヲ著シク遅延セシムル處アリタルヲ以テ我方ヨ  
リ全般的ニ八十萬分ノ一地圖ヲ作成シ國境記錄上特別ノ  
必要アリト認ムル箇所ニ限り二萬五千分ノ一地圖ヲ作成  
スルコトニ修正方提議セルモ先方ハ正確ヲ期スル爲全國  
境ニ付二萬五千分ノ一地圖ヲ作成シ度キ旨重ネテ主張セ  
ルヲ以テ我方之ニ同意セリ

現地國境確定委員會ノ構成及職務ニ關スル取極左ノ通  
一、一九四〇年六月九日附申合ノ(二)ニ從ヒ一方滿洲國代表者  
二名他方蒙古人民共和國代表者二名ヨリ成ル委員會構成  
セラルヘシ

三、滿洲國側代表者及蒙古側代表者ハ補佐員トシテ夫々八名

ヲ越ヘサル専門家、技術員及通譯ヲ帶同ス

双方ノ代表者ハ事業遂行上必要ナル助手及勞務員ヲ帶同  
スルコトヲ得ヘク其員數ハ本委員會自ラ之ヲ定ム

三、本委員會ハ現地ニ於ケル技術的作業ヲ遂行スル爲滿洲國  
及蒙古人民共和國ノ委員各三名ヨリ成ル二個ノ小委員會  
ヲ設置ス

(註) 本委員會ノ事業規定及小委員會ニ對スル技術上ノ  
指令ハ本委員會自ラ之ヲ定ム

四、小委員會ハ左ノ事業ヲ遂行スルモノトス

(イ) 一九四〇年六月九日附申合附屬ノ二十萬分ノ一地圖

ニ記載セラレタル國境線ヲ現地ニ移スコト

(ロ) 國境標識又ハ氣候ノ關係上已ムヲ得サルトキハ假標

識ヲ現地ニ設定スルコト

(ハ) 現地ニ於ケル國境線ノ通過地點ニ關シ正確ナル文書

ヲ作成スルコト

五、本委員會ハ小委員會ノ事業ヲ指揮シ小委員會ノ遂行シタ  
ル事業ヲ承認シ小委員會ニ於テ生スルコトアルヘキ紛議  
ヲ審議シ且之ヲ解決スルモノトス

六、本委員會ハ現地作業終了後右作業ノ結末ヲ綜合スル議定

書(單數)之ニ附屬スル國境線ノ一般的記述、二萬五千分  
ノ一ノ詳細ナル國境地圖、國境標識又ハ假標識ノ距離及  
多角測量作業ニ依リ得タル標識ニ於ケル夾角ヲ示セル表  
竝ニ各國境標識又ハ假標識ニ關スル議定書(複數)ヲ作成  
スヘシ右ノ外本委員會ハ國境標識ノ保全ニ關スル規定ヲ  
作成ス

七、本委員會ニ於テ作成セラレ且署名セラレタル議定書(單  
數)及一切ノ附屬書ハ滿洲國政府及蒙古人民共和國政府  
ニ提出セラレ其承認ヲ得ルヲ要ス

八、本委員會ノ會議ハ一九四〇年八月一日ヨリ開始セラルヘ  
ク其前期ヲ「チタ」市ニ於テ後期ヲ滿洲里市ニ於テ行フ  
九、本委員會及小委員會ノ構成員竝ニ補佐員ハ相手國領域内  
ニ於テ身體及其攜帶スル文書ノ不可侵ヲ享有シ且課稅及  
公課ヲ免除セラルヘク其任務ノ遂行上必要ナルトキハ其  
都度相手國代表者ノ同意ヲ得テ相手國領域ニ立入ルコト  
ヲ得ヘク又本國ニ向ケ支障ナク電信ヲ發シ傳書使ヲ送ル  
コトヲ得ヘシ傳書使ヲ通シテ發受スル文書亦不可侵トス  
本委員會及小委員會ノ構成員竝ニ補佐員ハ其身分ニ屬ス  
ル制服ヲ着用シ及武器ヲ携行スルコトヲ得ヘク竝宿舍、

通信及交通ニ付便宜ヲ供與セラルヘシ

二〇、本委員會及小委員會ノ共同ノ費用ハ雙方ニ於テ均等ニ  
分擔セラルヘシ

二一、代表者及補佐員ノ任命ハ政府間ニ相互ニ通告セラルヘ  
シ

二三、本委員會及小委員會ノ議事ハ祕密トス委員會ノ議事又  
ハ業務ニ付發表ヲ必要トスルトキハ雙方代表者ノ承認ヲ  
得タル「コンミュニケ」ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

三、本申合ハ祕密トス

